財団法人 日本ハンドボール協会編　平成22年12月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻524号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

DEC. 2011・No.524

特集

2012ロンドンオリンピック女子アジア予選
速報:2012ロンドンオリンピック男子アジア予選
第66回国民体育大会

[表紙写真：2012ロンドンオリンピックアジア予選の男子日本代表・宮﨑選手(左側)、女子日本代表・東濱選手(右側)：写真提供・スポーツイベント社]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

「最終のチャンスに向けて力の限り戦い抜く」「改革のスタートを切る」

(財) 日本ハンドボール協会 専務理事　川上 憲太

日本ハンドボール界の悲願をかけたロンドンオリンピックアジア予選が行なわれました。結果は、男子代表、女子代表ともに宿敵・韓国の壁にはね返され、日本のオリンピック出場の戦いは世界最終予選へと目標が変わりました。

この結果が出る瞬間、私は選手団の団長として選手、スタッフと共に試合会場にいました。言葉に表すことができない思いがこみ上げてきました。これは全国のハンドボールを愛する皆様と同じであったと思います。

女子は黄監督のもとに「人が動く、ボールが動く」を合言葉に長期のハードトレーニングと周到な準備でこの大会に挑みました。大会直前にカタールの不出場から大幅に試合日程、対戦相手の変更が行なわれました。それに動じることなく、アジア選手権1位のカザフスタン、アジア大会1位の中国を破り、チームコンディション・ムードも最高潮に達していました。いよいよ決戦を迎え、前半を1点リードで折り返し、悲願達成が目前まで来ていました。しかし韓国の驚異の粘りの前に惜しくも勝利をものにすることができませんでした。12月の世界選手権大会での活躍によっては世界最終予選での悲願達成も充分に期待できると感じました。

男子は予選リーグの緒戦、韓国戦では、アウェーの会場の中で韓国に存分にやられましたが、翌日の中国戦に勝利、オマーン戦も前半に大量リード、後半もたつきましたが勝利、決勝ラウンドへ。準決勝のサウジアラビア戦も緊張して挑みましたが、前半にリードを奪い有利に試合を進め何とか勝利しました。女子に続いて韓国との対決、緒戦の敗北とは変わり前半1点差で折り返しました。しかし、またまた韓国の粘りの前に屈し、男子も世界最終予選出場となりました。来年1月のアジア選手権（世界選手権予選）を好結果で終えればまだまだ「何が起こるかわからない」戦いとなります。世界最終予選では男女とも日本代表選手の**力の限りの戦い**を期待したいと思います。

前回の北京オリンピックアジア予選で起きた「中東の笛」については、その後日本協会もIHF、AHFに働きかけ、AHFも猛反省の上で最近のアジア大会においても全く問題なく行われておりましたが、まだ懸念が残っておりました。しかしIHFプラウゼPRC委員長の管理のもと、大変フェアなジャッジが展開されました。これはハンドボールの発展にとって誠に喜ばしいことだと感じました。

中国、韓国まで応援に来てくださった皆様、本当にありがとうございました。選手にとって本当に何よりの力となったと思います。また国内で日本代表チームを応援いただいた皆様に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

日本協会は「世界を奪い返す」「アジア№1に返り咲く」を目標に「強化にすべてのベクトルを合わせる」を基本方針として事業を推進してまいりました。日本代表の強化は言うまでもなく、NTSの推進、ジュニアアカデミーの充実、U-16から始まる各カテゴリーの強化、指導者の育成等における強化体制の充実、レフェリーの強化、小学生・中学生・高校生・大学生大会の充実、日本リーグの活性化、国際活動、マーケティング、広報活動他、すべてが強化・国際競技力向上の目的に向っていることがこの基本方針の真意です。

果たして「真の充実、活性化、強化がなされていたか」、「魂の入った活動」が行なわれたか、すぐにこの点の検証を行ない、対策、**改革に取り組む**作業をスタートいたしました。今年度中にできる改革、また来年度の事業計画での改革を実現させたく思います。皆様の忌憚のないご意見、ご提案もぜひ頂戴したいと考えています。宜しくお願いいたします。

2012 ロンドンオリンピック女子アジア予選

主　　催：アジアハンドボール連盟
大会期間：2011 年 10 月 12 日（水）－ 21 日（金）
開催都市：中国・常州市
会　　場：Changzhou Olympic Sports center
参加国：カザフスタン、中国、韓国、日本、北朝鮮、トルクメニスタン
競技方式：１回戦総当たりのリーグ戦

日本は４勝１敗で２位となり世界最終予選出場権を獲得

写真提供・スポーツイベント社

選手団名簿

役職	氏名	所属
団長	川上　憲太	（財）日本ハンドボール協会
副団長	西窪　勝広	（財）日本ハンドボール協会
監督	黄　慶泳	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	栗山　雅倫	（財）日本ハンドボール協会
コーチ	小藪　憲次	（財）日本ハンドボール協会
ドクター	佐久間　克彦	熊本赤十字病院
トレーナー	高野内　俊也	（財）日本予防医学協会
情報分析	小笠原　一生	武庫川女子大学

背番号	2	背番号	3
名前	黒木　聡子	名前	髙橋　恵
所属	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州	所属	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州
生年月日	1986.11.01	生年月日	1986.07.14
身長	163	身長	160
出身校	筑波大学	出身校	筑波大学
背番号	4	背番号	5
名前	上町　史織	名前	伊藤　亜衣美
所属	北國銀行	所属	三重ﾊﾞｲｵﾚｯﾄｱｲﾘｽ
生年月日	1981.01.21	生年月日	1983.05.07
身長	165	身長	170
出身校	国士舘大学	出身校	武庫川女子大学
背番号	6	背番号	8
名前	植垣　暁恵	名前	小野澤　香理
所属	広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ	所属	北國銀行
生年月日	1984.07.25	生年月日	1979.07.25
身長	172	身長	170
出身校	大阪教育大学	出身校	国士舘大学
背番号	10	背番号	11
名前	藤井　紫緒	名前	山野　由美子
所属	オムロン	所属	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州
生年月日	1985.03.27	生年月日	1988.07.27
身長	165	身長	168
出身校	東京女子体育大学	出身校	筑波大学
背番号	12	背番号	13
名前	毛利　久美	名前	若泉　春香
所属	三重ﾊﾞｲｵﾚｯﾄｱｲﾘｽ	所属	北國銀行
生年月日	1985.01.17	生年月日	1987.05.09
身長	169	身長	172
出身校	福岡教育大学	出身校	大阪教育大学
背番号	14	背番号	16
名前	巻　加理奈	名前	田代　ひろみ
所属	オムロン	所属	北國銀行
生年月日	1982.07.13	生年月日	1982.03.15
身長	168	身長	180
出身校	熊本市立高校	出身校	四天王寺高校
背番号	17	背番号	20
名前	東濱　裕子	名前	石立　真悠子
所属	オムロン	所属	オムロン
生年月日	1984.08.18	生年月日	1987.01.18
身長	178	身長	165
出身校	陽明高校	出身校	筑波大学
背番号	21	背番号	22
名前	若松　里佳	名前	藤間　かおり
所属	北國銀行	所属	オムロン
生年月日	1984.06.10	生年月日	1982.07.06
身長	160	身長	173
出身校	高岡向陵高校	出身校	大分鶴崎高校
背番号	23	背番号	28
名前	早船　愛子	名前	永田　しおり
所属	三重ﾊﾞｲｵﾚｯﾄｱｲﾘｽ	所属	オムロン
生年月日	1980.01.23	生年月日	1987.10.24
身長	166	身長	171
出身校	筑波大学	出身校	福岡女子商業高校

ロンドンオリンピックアジア予選について

女子代表チーム監督　黄　慶泳

■強化合宿について

▼今年度の強化合宿日程

4月11日－27日：ANTC＆日韓戦
5月9日－28日：ANTC＆関東エリア男子高校ゲーム
6月6日－7月2日：オムロン＆九州エリア男子高校ゲーム
7月18日－25日：広島東区スポーツセンター
＆広島国際大会参加
8月1日－15日：フランス遠征
8月22日－9月13日：ANTC＆関東エリア高校男子ゲーム
9月14日－10月1日：フランス＆ノルウェー遠征
10月2日－10日：ANTC

▼強化ポイント

①トータルフィットネス強化。
②国内男子高校チームとの試合を通して大型対策。
③ヨーロッパ強豪クラブチーム＆各国代表チームとのゲームの中で勝ち方の体得。
④戦術のバリエーションを持つこと＆ゲームマネジメント力強化。
⑤戦える気力（ファイティングスピリット）＆組織力（犠牲、忠誠心）強化。

■大会について

◆第1戦（勝）　日本 38（18-14、20-12）26 カザフスタン

＊試合前の Meeting Point
①感謝の気持ち＆謙虚さを持って戦う。
②日本の良さである運動量＆機動力を生かして人とボールが動くハンドボールを展開する。
③相手の攻撃力を崩す為には攻撃のオープニングを自由にさせないことである。6：0スイッチディフェンスから左バックへの5：1変則守りへの変化からスタートするが、後はゲーム中で指示に対する徹底。
④バックコートが遅い時間帯での素早い速攻への展開が大きな勝敗の鍵となる。
⑤リーグ戦の戦い方を理解。
⑥相手の新戦力に対する対応はゲームの中で早い時間帯で感じて対応しなければならないことが唯一不利な状況であるが、勝てる練習はしてきた。（相手の良さはあるが、日本のよさもある。それが勝つ要因である事を認識）
スターティングメンバー：田代、藤井、早船、東濱、植垣、小野澤、上町
＊結果＆課題
①守りから速攻の展開でラストパスのスピード＆精度が低い。
②接戦の状況でフィニッシュシュートの成功率が低い。
③得点は多いが、26点の失点であれば韓国、中国には苦しい戦いとなる。２カ国のシューターへのプレッシャーが激しくなるときに、今日のような得点は出来ないことを理解しなければならない。
④攻撃の時間が短く単発でプレーすることで、逆速攻の対応が遅れる局面がある。その例として左右揺さぶりが無い状況で PV へのバウンドパス。
⑤飛ばしパス＆ディフェンスの裏でボールが動く局面が無かった。
⑥１時間トータルで運動量が落ちなかったのは好材料である。

◆第2戦（勝）　日本　26（11-12、15-9）21　中国

＊試合前の MeetingPoint
①感謝の気持ち＆謙虚さを失わないことをもう一度認識すること。われわれはまだまだ勝ちに飢えている。
②１戦目のカザフスタン戦から自信を持って戦うことは重要である。しかし、今日の試合はシューターに対するプレッシャーが激しくなるので、点が簡単に取れないのを覚悟して戦いを準備することが重要である。相手ディフェンスの特徴を理解すること＆攻め方の準備
③敵地での戦いであるので色んな不利な状況を作られるのは当然のこと。その不利な状況を有利な状況で戦い続ける為にはメンタルスタミナが必要。
④６：０スイッチディフェンスから５：１変則守りへの変化からスタートする。しかし、激しい守りの変化をしながら攻撃の自由を奪いにいく準備をする事。
スターティングメンバー：藤間、藤井、早船、東濱、植垣、小野澤、上町
＊結果＆課題
①今日の試合では 190cm 長身 PV の守りがキーポイントであった。しかし、前半はバックプレーヤーからのアシストに対してパスタイミングの読みと守りのずれが生じていた。
②そのような状況で前半中盤からは PV の守りが修正できていたのが、全体的にロースコアに持ち込むことが出来てい

①弱いチームであるが、相手をリスペクトする気持ちと謙虚さを持って戦う。
②リーグ戦の戦いを考えて今出来る最善の努力をすること。
③相手の左バックのロングシュート＆バックとポストのコンビプレー注意。
＊結果＆課題
①速攻のバランス＆ PV の位置取りが遅い。
②全体的に右側の得点が多いが、左側の得点のバランスが悪い。
③フィニッシュのパス＆シュートの正確性が低い。特に接戦のときまたは大事な流れのとき。
④両エースとしての自覚（波が激しいのは相手からみると攻めやすいのを認識）。

たと考える。
③守って走ってから息が上がった状態でのノーマークシュート確率が低い。

◆第３戦（勝） 日本 30（14-11、16-12）23 北朝鮮
＊試合前の MeetingPoint
①感謝の気持ち＆謙虚さを失わないこと。（油断＆気の緩み注意）
②機動力＆スタミナ勝負（気力で負けないこと）。しかし、相手は休まない速い展開をしてくるので、速さだけではなく北朝鮮とは違うチェンジオブペースのリズム感が大切になる。
③６：０スイッチ守りから状況に応じて変化をつけながら対応することの認識。
④３：２：１ディフェンスの攻め方整理＆連動。ボールと人が逆の動きをすることがポイント
⑤良いゲームより１点差でも勝つ試合を作ることに集中すること。
スターティングメンバー：田代、上町、小野澤、植垣、東濱、巻（藤井と攻防チェンジ）、早船
＊結果＆課題
①守りから速攻の展開でノーマークシュートの確率＆正確性が低い。
②攻撃で PV ポジショニング＆コンタクトプレーの強さが必要。
③速攻も含めて攻撃でテンポの変化＆チェンジオブペースが前半は発揮できなかったが、後半は修正できたのは良い体験であった。

◆第４戦（勝） 日本 44（24-2、20-10）12 トルクメニスタン
＊試合前の MeetingPoint

◆第５戦（敗） 日本 22（11-10、11-17）27 韓国
＊試合前の MeetingPoint
①登録メンバー入れ替え（毛利、山野）の戦略的な狙い。
②攻撃で６つのシステム＆守りで６つのシステムを駆使することに準備と理解。先手を打ちながら激しい戦術の変化をしなければならないのを認識＆覚悟。
③自分たちが夢見てきた最後のチャレンジの舞台に立てる喜びと感謝の気持ち謙虚さを持って戦う。
④お互いに戦力を知り尽くしている中での戦いである。最後は気持ち（ファイティングスピリット）の勝負である。
⑤あなたたちは強い。それは運動量と組織力を持っていることである。そして決して一人ではない。色んな人の気持ちと体を頂いて作られた気力＆体力であることを理解しなければならない。会社、友人、友達、家族、練習相手（男女チーム）等々。
⑥前半立ち上がりの集中力＆爆発力が必要。
⑦戦略としては、右側（ライトバック＆サイド）の得点力を下げること。相手の速攻をどう潰すのかが勝負のキーとなる。弱点は多くないが前後半の戦い方が変わるのをしっかり認識。短身選手から守りの長身選手への攻守交代タイミングが隙。
スターティングメンバー：田代、上町、小野澤、植垣、東濱、巻（藤井と攻防チェンジ）、早船
＊結果＆課題
①試合の後半守りから速攻のリズムが作れなくて攻撃の流れも悪くなっていた。
②その流れになるとノーマークシュートミス＆パスミスも続いていること。
③利き手を中心に６：０スイッチディフェンスで前半は完璧

に勝負できていたが、個人技に頼る韓国の攻めに対する個々の力とチームシステムが完全ではなかった。

④後半逆転を許してからメンタルスタミナが無かった。（大舞台での経験）。

■今後の取り組みについて

３年間にかけてチームを作る中で、人が動くボールが動くハンドボールを運ぶ為には、スピード（動きのスピード、考えるスピード、プレーの選択スピード）、スタミナ（動きのスタミナ、メンタルスタミナ）、テクニック（スキル、ゲームマネジメント力）が必要だというテーマでトレーニングをしてきた。特に今年はトータルフィットネスの強化を進めていく中でもトレーニングゲーム（男子高校）を多くこなす中でゲームマネジメント力強化に重点をおいた。

その理由は、１時間トータルで運動量を落とさないでハードワークしながらも時間と点数・戦術の変化に冷静に組織力の中で力を発揮できるようにと思ったからである。

その意味でも多くの合宿の時間を許していただいた各チームのご理解、ご支援は勿論、練習相手として快く受けて頂いた男子高校の各チームには改めて御礼を申し上げたい。

成果としては、①スピードを落とさず１時間トータルでゲームが出来るようになったこと②交代選手がそれぞれの役割（戦術の変化）を理解して活躍してくれたこと③最終戦の韓国戦も含めて最後まで気力＆組織力を保って戦ってくれたことである。

しかし、今後の課題としては、①スピードを活かしたプレーの中でもチェンジオブペースが出来る感覚つくり②詰めのプレーであるラストパス＆シュート力の強化③大舞台で数多くの接戦の状況を体験することと共にそこを乗り越えられるメンタルスタミナ＆ゲームマネジメント力強化であると認識している。

今後については、今年日本リーグでは数多くの接戦の中で選手たちがタフになっていくことを期待したい。そして、今年の世界選手権に参加してより高いレベルの試合を一つでも多く体験して国際競争力を上げることが必要である。来年は日本リーグプレーオフ後にヨーロッパ遠征を企画して長身相手に対する恐怖感をなくすと同時に免疫力を高めて行きたい。

何より最高の気力と組織力で５月末のオリンピック世界最終予選に挑みたいと考える。

最後になりますが、先ずは様々な方面から女子代表チームの強化活動にご支援頂きました関係者の皆様には心よりお礼申し上げます。特に練習試合相手として快く対応して頂きました全国の男子高校チームには改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

日本全国のハンドボールを愛する皆様と共に作り上げた日本代表は気力と組織力を持って戦いましたが、オリンピックチケットを持ってご報告出来ませんでしたことをチームの責任者として大変申し訳なく思っております。しかし、アジアNo.１でのオリンピックチケットは取れませんでしたが、まだオリンピックの夢は終わったわけではありません。来年５月には世界最終予選がありますので、選手たちはその夢を現実にするために今まで以上に汗を流してくれると確信してお

ります。

そして、オリンピックに行くための近道は無く、皆様と共に今まで以上に身を削る努力をするのみだと考えます。

引き続き女子代表チームにご声援頂きます様お願い申し上げましてオリンピックアジア予選のご報告と致します。

ありがとうございました。

女子日本代表主将　藤井 紫緒

10月12日～21日に中国で2012ロンドンオリンピックアジア予選が開催されました。オリンピックの切符を獲得する最大のチャンスである今大会に向け、フィジカル強化に励み60分間走り負け・当たり負けしない体をつくり、海外遠征では戦術トレーニングを積み、心と体を万全に準備して中国へ乗り込みました。

現地へ到着してすぐカタールの辞退が発表され6チームでの総当り戦となりました。初戦から強豪国のカザフスタンとの対戦でしたが、自分たちの持ち味である機動力を使った守って速攻で流れを作り、好調な白星で大会をスタートすることができました。2試合目の中国戦でも完全アウェーの中、接戦を強いられる展開が続きましたが、ここでも日本の持ち味である守って速攻で得点を重ね中国に勝利することができました。3試合目は北朝鮮、相手の特徴であるフィジカルを生かしたプレースタイルに対して組織的なディフェンスで対応し、オフェンスはスピードに緩急をつけ、自分たちのリズムを掴み北朝鮮に勝利しました。続く4試合目のトルクメニスタンでは、絶対に気を許すことなく、また、相手をリスペクトする気持ちを忘れず全力で戦おうと試合に臨み勝利しました。そして最終戦は韓国。全勝同士で切符をかけての一騎打ちとなった試合は前半、利き手を徹底して守るディフェンスが機能し、速攻まで持ち込む展開ができ1点リードで前半を終えました。しかし、後半に入り持ち味の速攻ができず逆転され、追いかける状況が続きました。最後まで諦めることなく全員で戦いましたが5点差で敗戦、これまで厳しいトレーニングをしてきただけにとても悔しい試合でした。また中国まで足を運んでいただいたり、テレビの前で応援していただいた皆様のご期待に応えることができず申し訳ない気持ちです。しかし、オリンピックへの道が途絶えたわけではないので、世界選手権・世界最終予選と残されたチャンスに再び全力を尽くし、もう一度前を向いて戦いに行きたいと思います。

この度は、日本全国の皆様の応援により本当に絶大な力をいただきました。これからまた更に努力し、最後までオリンピックの切符獲得への執念を持って頑張りたいと思いますのでご声援よろしくお願いいたします。

最後に、今大会出場にあたり、ご尽力いただきました協会関係者の方々、温かく応援してくださった国民・ファンの皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

試合結果・戦評

◆10月12日（水）

中国　41（22－1、19－5）6　トルクメニスタン

◆10月13日（木）

日本　38（18－14、20－12）26　カザフスタン

【戦評】ロンドンオリンピックアジア予選第1戦はカザフスタンとの対戦。前半、最初のオフェンスで東濱のミドルシュートで先制すると、ディフェンスでも足をよく動かし立ち上がり好スタートを切り、6分すぎ6対2とリードを奪う。そこからリズムを掴みたい日本だったが、相手のミスに付き合う形となり13分には7対7と追いつかれ、そこから一進一退の攻防が展開される。終盤25分から日本はディフェンスでリズムを掴み4連取し18対14で前半を折り返す。後半、カザフスタンはダブルポストでのオフェンスシステムを多用してくるが、日本ディフェンスはポストへのパスを封じ相手のミスを誘い出し速攻につなげる理想的な展開で点差を徐々に広げ、15分過ぎに27対20とする。19分すぎ4連取し33対23とすると終盤にもう一度4連取し37対24と完全に試合を支配し、結果38対26で、大事な初戦を勝利することができた。

【個人得点】上町：9点、藤井：7点、植垣・東濱：5点、小野澤：4点、早船：3点、石立：2点、黒木・高橋・若泉：1点

韓国　44（18－11、26－18）29　北朝鮮

◆10月15日（土）

日本　26（11－12、15－9）21　中国

【戦評】アジア予選2戦目は地元中国との対戦。前半、上町のサイドシュートで先制した日本だったが、中国のポストを中心とするオフェンスに対してディフェンスが機能せずペースを持っていかれる。12分過ぎ3対7とされたところでタイムアウトを要求。タイム後、日本はディフェンスの修正を図りポストを徹底して守り、中国のリズムを崩すと、18分から7連取し28分過ぎに11対10と逆転に成功。しかし残り1分で相手に2連取され11対12で前半を折り返す。後半、日本ディフェンスは前半同様ポストを徹底して守る。4分過ぎ3連取し15対13とする。しかし、ここからなかなか3点差に広げることができずに相手のミスにつきあう時間帯が続く。中盤は一進一退の攻防が展開されお互いペースを譲らない。20分すぎ21対21の同点から日本は5連取し、残り10分間相手を無得点に抑え26対21で勝利した。立ち上がりの悪さはあったが、そこから修正し完全アウェーの中冷静に試合運びができたことが勝利へとつながった試合であった。

【個人得点】藤井：7点、植垣：6点、上町：5点、石立：3点、東濱・早船：2点、若松：1点

韓国　45（23－6、22－5）11　トルクメニスタン

カザフスタン　22（13－15、9－7）22　北朝鮮

◆10月17日（月）

カザフスタン　27（15－5、12－4）9　トルクメニスタン

日本　30（14－11、16－12）23　北朝鮮

【戦評】アジア予選3試合目は北朝鮮との対戦。前半立ち上がり、日本同様機動力を活かしフィジカルの強さを持つ北朝鮮に対して10分過ぎまで互角の展開で試合が進む。日本は、13分過ぎにペースを掴むと上町の連続得点などで5連取し18分には11対6とリードを奪う。終盤はお互いに点を取り合う形となり14対11で前半を折り返す。後半、ダブルポストにシステムチェンジをする北朝鮮オフェンスに対して、日本ディフェンスは冷静に対応し速攻・セットと効率よく点を重ねていく。15分には23対14と9点差にリードを広げる。ここから終盤までは一進一退の攻防が続いたが、リードを守りきり30対23で勝利した。

【個人得点】上町：１１点、東濱：５点、藤井：４点、石立：３点、黒木・高橋・永田：２点、若泉：１点

韓国　31（16 － 10、15 － 9）19　中国

◆ 10 月 19 日（水）

韓国　36（21 － 12、15 － 11）23　カザフスタン

日本　44（24 － 2、20 － 10）12　トルクメニスタン

【戦評】アジア予選４戦目はトルクメニスタンとの対戦。前半立ち上がり、日本の速い展開についてこられない相手に対して、日本は得点を重ねていく。７分すぎから前半終了まで失点を２点に抑えたが、オフェンスのテクニカルミスが目立ち消化不良のまま 24 対２で折り返す。後半、日本は貪欲に点を奪いにいき全員得点をする活躍を見せたが、ディフェンスでは相手の単調なオフェンスに対して我慢しきれない局面があり、無駄な失点をしてしまい結果 44 対 12 で終了。

【個人得点】高橋：9 点、早船：7 点、上町：6 点、東濱：5 点、黒木・藤井・石立：３点、若松・永田：２点、植垣・小野澤・若泉・巻：１点

中国　28（14 － 12、14 － 14）26　北朝鮮

◆ 10 月 20 日（木）

北朝鮮　33（15 － 4、18 － 6）10　トルクメニスタン

◆ 10 月 21 日（金）

韓国　27（10 － 11、17 － 11）22　日本

【戦評】アジア予選最終戦は韓国との対戦。前半、東濱の先制点から好スタートを切った日本。序盤は韓国の個人技に対して利き手を徹底して守る日本のディフェンスが機能し、韓国オフェンスに対応する。しかし日本はオフェンスでの確率が悪くなかなかペースが掴めない。中盤以降も一進一退の攻防が続く中、日本は GK 田代が好セーブを連発し流れを呼び込みリード奪い 11 対 10 で前半を終える。後半、立ち上がりから韓国はスピードを活かしたオフェンスで日本ディフェンスを揺さぶってくる。２分過ぎから３連取を許してしまい 12 対 14 と逆転されてしまう。そこからなんとか食らいつく日本だったが退場で１人少ない時間帯が続き、点差を広げられてしまい 19 分には 16 対 21 となる。それでも集中力を切らさない日本は最後まで試合をあきらめず点差を詰めにかかる。しかし韓国の冷静な試合運びの前に 22 対 27 で終了。

ロンドンオリンピックの出場権は獲得ならず、来年５月に行われる世界最終予選に回ることになった。

【個人得点】東濱：8 点、早船：4 点、藤井：3 点、上町・石立：２点、黒木・小野澤・巻：１点

中国　22（13 － 8、9 － 13）21　カザフスタン

最終順位

1 位：韓　国：５勝
2 位：日　本：4 勝 1 敗
3 位：中　国：３勝２敗
4 位：北朝鮮：1 勝３敗１分（総得失点差－１点）
5 位：カザフスタン：１勝３敗１分（総得失点差－８点）
6 位：トルクメニスタン：５敗

※１位・韓国は 2012 ロンドンオリンピック出場権獲得、２位・日本は世界最終予選出場権獲得。

暫定順位		KOR	JPN	CHN	PRK	KAZ	TKM	数	勝 - 分 - 敗	得点	失点	差	点
1 位	韓　国（KOR)		27 ○ 22	31 ○ 19	44 ○ 29	36 ○ 23	45 ○ 11	5	5-0-0	183	104	79	10
2 位	日　本（JPN)	22 ● 27		26 ○ 21	30 ○ 23	38 ○ 26	44 ○ 12	5	4-0-1	160	109	51	8
3 位	中　国（CHN)	19 ● 31	21 ● 26		28 ○ 26	22 ○ 21	41 ○ 6	5	3-0-2	131	110	21	6
4 位	北朝鮮（PRK)	29 ● 44	23 ● 30	26 ● 28		22 △ 22	33 ○ 10	5	1-1-3	133	134	-1	3
5 位	カザフスタン（KAZ)	23 ● 36	26 ● 38	21 ● 22	22 △ 22		27 ○ 9	5	1-1-3	119	127	-8	3
6 位	トルクメニスタン（TKM)	11 ● 45	12 ● 44	6 ● 41	10 ● 33	9 ● 27		5	0-0-5	48	190	-142	0

速報 2012ロンドンオリンピック男子アジア予選

10月23日から11月2日まで韓国・ソウルで開催された2012ロンドンオリンピック男子アジア地区予選で、日本男子代表は惜しくも決勝で韓国に敗れ、今大会でのオリンピック出場権の獲得はならず、来年4月に行なわれる世界最終予選にオリンピック出場の"夢"を掛けることとなった。

■最終順位
1位：韓国
2位：日本
3位：イラン
4位：サウジアラビア
5位：カタール
6位：中国
7位：クウェート
8位：オマーン
9位：ウズベキスタン
10位：カザフスタン
※1位・韓国は2012ロンドンオリンピック出場権獲得、2位・日本は世界最終予選出場権獲得。

▼予選Aグループ
イラン　27（11－9、16－14）23　クウェート
サウジアラビア　41（17－13、24－13）26　ウズベキスタン
サウジアラビア　22（11－8、11－13）21　イラン
カタール　38（20－15、18－17）32　ウズベキスタン
カタール　31（16－15、15－16）31　クウェート
サウジアラビア　30（16－10、14－11）21　クウェート
イラン　45（22－8、23－14）22　ウズベキスタン
イラン　35（14－15、21－17）32　カタール
カタール　28（14－11、14－16）27　サウジアラビア
クウェート　44（18－12、26－14）26　ウズベキスタン
▼予選Bグループ
オマーン　41（21－15、20－12）27　カザフスタン

韓国　31（14－6、17－12）18　日本

【戦評】立ち上がり、緊張からかオフェンスミスが連続し、13分までに1対7とリードされてしまう。その後、キャプテン末松の速攻、野村のサイドで得点し、リズムをつかみたいところだったが、要所でミスが出てしまいなかなかリズムに乗れない。残り10分を切り、岸川・豊田らが加点するが、ミスからの失点が目立ち前半を6対14で折り返す。

後半、立て直しを図りたい日本はGK松村の好セーブから富田・宮﨑・門山らが得点。さらに流れに乗りたい日本だったが、またもオフェンスミスから失点し点差を広げられてしまう。中盤以降は韓国ディフェンスを崩し、シュートチャンスを作るもののフィニッシュが決まらず点差を詰めることができない。その後、武田の速攻、宮﨑の個人技などで加点するが初戦は18対31で終了。

【個人得点】宮﨑：5点、末松・野村：3点、富田・門山：2点、豊田・武田・岸川：1点

韓国　41（24－5、17－10）15　カザフスタン

日本　26（12－10、14－14）24　中国

【戦評】前半、小澤の連続ゴールで先制すると、12分過ぎまでGK松村の好セーブ、豊田・門山・末松らの得点で6対2とリード。中盤、中国に退場があり点差を広げるチャンスを得るものの、中国の攻撃が長く、ディフェンスで我慢する時間が続く。その後連続失点で点差を詰められ、12対10で前半を折り返す。

後半、日本はエース宮﨑が得点。中国は長身バックプレーヤーが11m付近からのロングシュートなどで応戦。5分過ぎ15対15の同点に追いつかれる。さらにシュートミスからの連続失点で11分に16対19と3点差をつけられてしまう。しかし、富田の速攻から流れをつかみ、宮﨑・豊田と連続ゴールで19対19の同点に。中盤、1点を争うゲーム展開になるが海道の体を張ったプレーで中国に退場者を出す。その間に岸川の速攻などで加点し、残り5分で25対22と逆転。その後、GK松村の好セーブもあり26対24で中国に勝利した。

【個人得点】豊田：7点、小澤・末松・宮﨑：4点、富田：3点、岸川・門山：2点

韓国　31（13－14、18－10）24　オマーン
中国　38（19－8、19－8）16　カザフスタン

日本　34（20－8、14－21）29　オマーン

【戦評】立ち上がり、宮﨑のミドル、豊田・富田の速攻などで5分で6対2。9分過ぎには速攻時に武田へのラフプレーで一発レッドなど、オマーンに退場者が出る間に末松・小澤らの得点で10対2とリードを広げる。中盤はGK甲斐の連続セーブから速攻で加点、ディフェンスでは武田のパスカットから岸川が得点するなど20分で16対4とリード。その後も東長濱・野村らが加点し、20対8と大量リードで前半を折り返す。

後半1分、日本は1人退場者を出す間に連続失点してしまう。オマーンは変形の4－2DFで対応。さらに10分過ぎ、エース宮﨑にマンツーマンディフェンスで対応しようとするが、広くなったディフェンスの間から宮﨑・武田・海道らが得点しリードを保つ。しかし14分、日本は続けて退場者を出してしまうとミスから失点してしまう。ディフェンスも疲れからか足が止まってしまい、連続でミドルシュートを決め

られ、21分には28対25と3点差まで詰め寄られる。さらにピンチは続くがGK甲斐の好セーブ、門山の連続ゴール、キャプテン末松のカットインなどでこのピンチを凌ぎ34対29で勝利した。

【個人得点】末松：７点、小澤：６点、豊田：５点、宮﨑：４点、富田：３点、海道・東長濱・門山：２点、武田・岸川・野村：１点

韓国　31（13－10、18－15）25　中国

中国　24（12－13、12－10）23　オマーン

日本　46（22－5、24－10）15　カザフスタン

【戦評】今大会安定している６－０DF。先制点を奪われるが宮﨑のミドルを皮切りに富田・武田・小澤ら６連続得点で流れをつかむと、中盤も岸川らの得点で12分10対4とリードする。その後もGK甲斐の連続セーブから小澤・門山・東長濱・末松・森・野村・海道と怒濤の10連続得点などで前半を22対５で折り返す。

後半も安定したDFから末松らの得点で加点。中盤も後半から入ったGK篠内の好セーブから海道・永島らの速攻で得点し、33対９とさらにリードを広げる。その後も門山・東長濱らの速攻などが決まり、46対15で快勝。

【個人得点】小澤：10点、野村・末松：７点、東長濱：６点、宮﨑・海道・門山：３点、永島・富田：２点、武田・岸川・森：１点

▼９－10位決定戦

ウズベキスタン　32（13－11、19－12）23　カザフスタン

▼７－８位決定戦

クウェート　36（20－15、16－12）27　オマーン

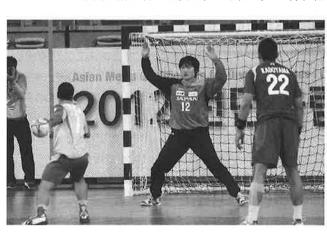
▼５－６位決定戦

カタール　30（12－14、18－7）21　中国

▼準決勝

日本　22（14－9、8－12）21　サウジアラビア

【戦評】立ち上がり、GK松村のセーブから宮﨑の連続得点、小澤の速攻と幸先の良いスタートを切り、12分過ぎで５対１。中盤も安定したDFから岸川の速攻や門山のミドルなどで加点。19分過ぎ、サウジアラビアはエース宮﨑にマンツーマンDFを仕掛けるが、小澤らの得点などで前半を14対９で折り返す。

後半も岸川・富田の得点で16対９とリードを広げるが、サウジアラビアの変則的な５－１DFに対して攻めあぐね、３連続失点で16対12と点差を詰められる。さらに13分過ぎ、宮﨑・門山に対しダブルマンツーとされ攻撃のリズムをつかめずミスが発生。16分過ぎに18対18の同点に追いつかれる。日本はここでタイムアウトを請求し、悪い流れを断ち切ると高智のパスカットから富田が７mTを獲得。これをキャプテン末松が落ち着いて決め、19対18。19分、日

本が一人退場するピンチもGK甲斐が相手の速攻をセーブ。さらにゲームメイクの海道が自らの得点と続けざまにサウジアラビアの退場を誘う。ここでもDFが踏ん張りを見せ、約8分間無失点に抑え日本に流れを引き込む。残り90秒、サウジアラビアはオールコートマンツーで日本のミスを誘うが、小澤のサイドシュートで21対19。再びミドルを決められ1点差となるが、最後は岸川が渾身のシュートを決め22対21で勝利した。

【個人得点】小澤：6点、宮﨑：5点、門山：4点、岸川：3点、末松：2点、海道・富田：1点

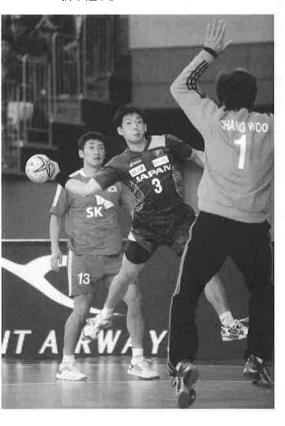
韓国　33（15－11、18－14）25　イラン

▼3位決定戦

イラン　21（10－11、11－9）2 サウジアラビア

▼決勝

韓国　26（11－10、15－11）21　日本

【戦評】ロンドンオリンピックアジア予選、決勝は韓国。立ち上がり、門山のミドルで先制すると、宮﨑のミドルも決まり4分で3対1とリード。これに対し韓国はDFシステムを6－0から3－2－1に変化して応戦するが、広くなったスペースを宮﨑・門山がカットインで加点。DFでも韓国のエースに対し効果的なスイッチで対応。さらにGK松村の連続セーブから小澤のサイドなどで14分で7対4とリードを保つ。しかし、中盤にミスが続くとそこから4連続失点で7対8と逆転されてしまう。しかし20分、韓国の7mTをGK篠内がセーブ、OFでは豊田のサイドシュートが決まり8対8の同点。22分、日本は一人退場者を出す間に失点するが、海道・末松のゴールで前半を10対11の1点ビハインドで折り返す。

後半もDFから流れをつかみ、高智の速攻などで加点し7分過ぎまで14－15と1点差で追いかけるものの、シュートミスから逆速攻での連続失点で14対18と4点差をつけられてしまう。中盤、GK篠内の顔面にシュートがあたるアクシデントがあったものの気迫のセーブでチームを鼓舞すると、それに高智・小澤らが応え連続得点で再び17対18と1点差に。しかし、15分過ぎ日本の連続退場の間の失点で17対22と5点差をつけられてしまう。その後も富田・海道らの得点で何とか粘りを見せた日本だったが21対26で試合終了。

3点共　写真提供・スポーツイベント社

ロンドンオリンピックへの出場は来年4月に行われる世界最終予選に持ち越しとなった。

【個人得点】小澤・高智：4点、末松・宮﨑・門山：3点、海道：2点、豊田・富田：1点

2012ロンドンオリンピック予選について

男子　＊参加12ヵ国

◎**オリンピック開催国**…イギリス
◎ **2011年世界選手権1位**…フランス
◎**各大陸代表**
　アジア（2011年11月決定）：韓　国
　パンアメリカ（2011年10月決定）：アルゼンチン
　アフリカ（2012年1月決定）
　ヨーロッパ（2012年1月決定）
◎**世界最終予選**…2012年4月6－8日
　各グループ内でリーグ戦（総当たり）を行い、上位2ヶ国が出場権を獲得する。

予選会 1	予選会 2	予選会 3
＊デンマーク	＊スペイン	＊スウェーデン
＊ハンガリー	＊アイスランド	＊クロアチア
ヨーロッパ1	ブラジル（パンアメリカ1）	日　本（アジア）
アフリカ	ヨーロッパ2	チリ（パンアメリカ2）

＊印は2011年世界選手権により決定。

2011年世界選手権順位

1位：フランス
2位：デンマーク
3位：スペイン
4位：スウェーデン
5位：クロアチア
6位：アイスランド
7位：ハンガリー
8位：ポーランド
9位：ノルウェー
10位：セルビア
11位：ドイツ
12位：アルゼンチン…

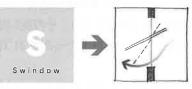
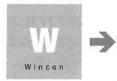
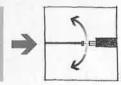
2011年世界選手権において2位から7位に入ったチームが五輪出場権を得た場合は、同選手権8位のチームが予選会出場権を得る。（複数ある場合は順次繰り上がる。）

女子　＊参加12ヵ国

◎**オリンピック開催国**…イギリス
◎ **2011年世界選手権1位**…2011年12月決定
◎**各大陸代表**
　ヨーロッパ（2010年12月決定）：ノルウェー
　アジア（2011年10月決定）：韓　国
　パンアメリカ（2011年10月決定）：ブラジル
　アフリカ（2012年1月決定）
◎**世界最終予選**…2012年5月25－27日
　各グループ内でリーグ戦（総当たり）を行い、上位2ヶ国が出場権を獲得する。

予選会 1	予選会 2	予選会 3
2011年世界選手権 2位	2011年世界選手権 3位	2011年世界選手権 4位
2011年世界選手権 7位	2011年世界選手権 6位	2011年世界選手権 5位
A (*)	B (*)	C (*)
D (*)	A (**)	B (**)

A*　2011年世界選手権における最上位チームの所属大陸へ付与
　五輪出場未確定で世界選手権7位までに入っていない、大陸予選上位のチーム
B*　2011年世界選手権において2番目の成績を収めた大陸へ付与
C*　2011年世界選手権において3番目の成績を収めた大陸へ付与
D*　2011年世界選手権において4番目の成績を収めた大陸へ付与
A** 上記A*に加えて、2011年世界選手権における最上位チームの所属大陸へ付与
B** オセアニアのチームが2011年世界選手権において、8位から12位に入っていた場合は、オセアニア大陸選手権最高位の成績を収めたチームへ付与。
　そうでなかった場合、上記B*に加えて2011年世界選手権において2番目の成績を収めた大陸へ付与。

2011年世界選手権において2位から7位に入ったチームが、既に五輪出場権を得ている場合は、 同選手権8位のチームが予選会出場権を得る。（複数ある場合は順次繰り上がる。）

スポーツ安全保険

対象となる事故 団体活動中の事故／往復中の事故

保険期間 平成23年4月1日午前0時より平成24年3月31日午後12時まで(申込受付は平成23年3月から)

5+ 5名以上の団体でご加入ください

加入区分・掛金・補償金額（団体活動を行う5名以上の方々で、加入区分をそれぞれお選び頂いてご加入ください。）

加入対象者	補償対象となる団体活動	加入区分	年間掛金（一人当たり）	傷害保険金額 死亡	後遺障害（最高）	入院（日額）	通院（日額）	賠償責任保険支払限度額（免責金額なし）	突然死葬祭費用保険支払限度額
子ども（中学生以下（特別支援学校高等部の生徒を含む。））	スポーツ・文化・ボランティア・地域活動	A1	600円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算 1事故 5億円 ただし、身体賠償は 1人 1億円	突然死（急性心不全 脳内出血など）葬祭費用 180万円
	上記団体活動に加え、個人活動も対象 上段：団体活動中及びその往復中の補償額	AW	1,150円	2,100万円	3,150万円	5,000円	2,000円	身体・財物賠償 合算 1事故 5億500万円 ただし、身体賠償は 1人 1億500万円	
	熱中症及び細菌性・ウイルス性食中毒の場合、保険金額はA1区分と同様								
	下段：上記以外（個人活動など）の補償額			100万円	150万円	1,000円	500円	身体・財物賠償 合算 1事故 500万円	対象となりません
	熱中症及び細菌性・ウイルス性食中毒は対象となりません。								
大人 高校生以上（65歳以上の方も加入できます。）	文化・ボランティア・地域活動 団体員の送迎、応援、準備、片付け	A2	600円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	身体・財物賠償 合算 1事故 5億円 ただし、身体賠償は1人 1億円	突然死（急性心不全 脳内出血など）葬祭費用 180万円
大人 高校生以上	スポーツ活動 スポーツ活動の指導	C	1,600円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
大人 高校生以上	子どものスポーツ活動の指導 ※C区分でも加入可	AC	1,100円	1,000万円	1,500万円	2,500円	1,000円		
大人 65歳以上	スポーツ活動 ※C区分でも加入可 ※スポーツ活動を行わない方はA2区分	B	800円	600万円	900万円	1,800円	1,000円		
全年齢	危険度の高いスポーツ活動	D	9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

※同一団体で1口しか加入できません。中途加入する場合、中途脱退する場合も年間掛金を適用します。加入後の加入者の入換え、加入区分の変更はできません。
※危険度の高いスポーツ活動はD区分以外では補償されません。

インターネットからの加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。 Web スポーツ安全協会 検索

財団法人 スポーツ安全協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目12番1号 **TEL 03-5510-0022**

平成24年度に保険の改定を予定しております。詳しくはお問い合わせ下さい。

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org

●資料請求は、インターネットより受付けております。

この広告はスポーツ安全保険(傷害保険(スポーツ安全協会傷害保険特約付帯普通傷害保険、スポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)及び突然死葬祭費用担保特約)及び賠償責任保険(スポーツ安全協会賠償責任保険特約付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)))の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」及び「重要事項説明書」を良くお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら(財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険株までお問い合わせください。

〈引受幹事保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社 （担当課）公務第2部公務第1課
TEL 03-3515-4133（平日9:00～17:00）
〈共同引受保険会社(平成23年4月予定)〉※予告なく変更となる場合があります。
あいおいニッセイ同和　共栄火災　損保ジャパン　大同火災　東京海上日動
日新火災　日本興亜損保　富士火災　三井住友海上

平成23年1月作成 10-T-08374

東日本大震災復興支援

第66回 国民体育大会 ハンドボール競技

最終順位	
成年男子	1位：佐賀県　2位：広島県
	3位：愛知県　4位：埼玉県
	5位：茨城県、福井県、三重県、岡山県
成年女子	1位：石川県　2位：熊本県
	3位：広島県　4位：山口県
	5位：茨城県、神奈川県、大阪府、香川県
少年男子	1位：沖縄県　2位：山口県
	3位：岩手県　4位：愛知県
	5位：茨城県、埼玉県、山梨県、岡山県
少年女子	1位：山口県　2位：香川県
	3位：東京都　4位：沖縄県
	5位：埼玉県、千葉県、三重県、岐阜県

総　評

山口県ハンドボール協会　加藤　晃・飯島浩太

おいでませ！山口国体ハンドボール競技会は10月6日の諸会議に引き続き、7日から11日まで周南市において競技が行われ、最終日には秋篠宮同妃両殿下をお迎えし、5日間の熱戦に幕を閉じました。

山口国体の開催に向けた準備は、周南市実行委員会が中心となり、平成19年度から本格的に始められました。翌20年にインカレを開催し、22年にはリハーサル大会としてジャパンオープンを開催しました。本県では過去にも数回の全国大会の開催経験がありましたが、国体の開催は我々にとっては初めての経験であり、先催各県の皆様に多くのアドバイスをいただきながら準備・運営を進めて参りました。誌面をお借りして御協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

準備の過程では、リーマンショックの影響による強化費等の削減がありました。また、千葉国体における選手の参加資格問題では本県のみならず、多くの方々に御心配をお掛けしました。これら大小様々なアクシデントの中、内心忸怩たる思いで準備を進めておりました時に発生したのが3.11の東日本大震災です。日に日に拡大する被害の大きさに茫然自失となり、全ての準備がストップしてしまいました。約2ヵ月後、知事の「東北のために国体を成功させよう」の言葉で再始動し、ようやく迎えた大会初日、第一試合のスローオフの笛が鳴った瞬間には思わず安堵のため息がもれました。

今大会は周南市の3会場5コートでの開催となりました。鹿野総合体育館は周南市の中心部から30㎞近く離れた山間部にあり、また熊毛体育センターは観客席が少なく、両会場で試合をされたチームには御不便をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。また、今回メイン会場となったキリンビバレッジ周南総合スポーツセンターは、その施設・設備には自信を持って大会を迎えたわけですが、まさかあれほど多くの方々が観戦に来てくださるとは、予想だにしていませんでした。3日目に消防署から入場制限の要請があり、その日はベンチ裏まで開放して急場をしのぎました。しかし、翌日の試合の許可が下りず、日本協会と相談の上急遽試合コートを変更する事態となりました。関係チームには快諾していただき、お陰で大きな混乱もなく4日目の競技を進めることができました。

今回このように予想を遥かに超える来場者があり、大会の盛り上がりを目の当たりにして、改めてハンドボール競技の発展の可能性を感じた次第です。本県は前回昭和38年の山口国体を契機に、ハンドボール競技の強豪県の一つとして数えられてきましたが、近年は少子高齢化により、競技人口、指導者ともに減少の傾向にあります。これまで県協会としましても、手をこまねいて現状に甘んじておりましたが、この大会を起爆剤としてもう一度普及、強化に知恵をしぼり、ハンドボール競技の発展に全力で取り組んでいきたいと決意を新たにいたしました。

競技成績の面では、千葉国体に続く連覇のかかった少年男子は惜しくも準優勝に終わりましたが、北東北インターハイ優勝の華陵高校を中心とする少年女子は苦しみながらも2冠を達成しました。また、地元に実業団チームも有力大学チームもない成年男女は、女子が第4位と大健闘し、男子も大崎電気の埼玉県に敗れたものの堂々のベスト16進出を果たし、その結果男女総合優勝という開催県として最高の結果を残すことができました。改めて各種別の選手、スタッフのこれまでの努力と健闘に敬意を表したいと思います。

大会を終え、運営面で選手・役員の皆様に御迷惑をおかけしたことも多々あったこととは思いますが、大会全体としては大成功であったと自負しております。これもひとえに、大会の開催にあたりさまざまな面で御指導と御協力をいただきました日本協会、長年にわたり誠心誠意準備にあたっていただきました周南市実行委員会、大会運営を支えてくださいました中国ハンドボール協会、審判員、競技役員、補助員、ボランティア及びすべての関係の皆様のお陰であると深く感謝し、心よりお礼申し上げます。

最後に、来年岐阜県で開催されます「ぎふ清流国体」の御成功をお祈りいたしますとともに、一日も早い東日本の復興を心より祈念申し上げます。本大会中に東日本復興支援の義援金が65,725円集まり、東北協会にお渡ししたことを申し添えて、国体の総評といたします。

優勝チームの声

成年男子：佐賀県

監督　谷川一寿

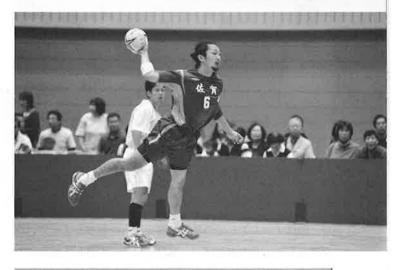
　はじめに、東日本大震災の犠牲者の方々に深く弔意を表し、被災者の皆様には1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

「第66回東日本大震災復興支援大会　おいでませ！山口国体」の開催にあたりご尽力いただきました日本ハンドボール協会、ならびに開催地であります山口県実行委員会、山口県ハンドボール協会の関係各位の皆様に心より感謝申し上げます。

　今回の国民体育大会にて優勝することが出来ましたのは、これも一重に日頃からトヨタ紡織九州ハンドボール部を支えて下さっているチーム関係者の皆様を始め、多くのファンの方々のご支援・ご協力があったこそ、優勝することが出来たと思っております。誠にありがとうございました。

　私たちトヨタ紡織九州レッドトルネードは、他のチームと比べ体格が小さく、“日本一”を獲得するには「日本一の運動量」が必要であると考え、日頃のトレーニングにおいて、選手一人一人が地道な基礎トレーニングを妥協することなく取り組んだ結果だと思っております。

　今回は東日本大震災復興支援大会であり、私たちのようなあまり体格に恵まれていないチームが体格の大きいチームと運動量で勝負を行い、個人個人の力では不可能な事もチームとしての総合力を発揮すればより大きな力が発揮できることを少しはお見せできたのではないのかと思っております。

　今後も、この結果に満足することなく、更なるレベルアップをはかり、ハンドボールファンの皆様に楽しんでいただける「魅力あるゲーム」を行い、日本の皆様を少しでも元気付けられるよう頑張りますので、ご支援・ご声援をよろしくお願い致します。

成年女子：石川県

主将　横嶋かおる

　はじめに第66回国民体育大会開催にあたり、山口県国民体育大会実行委員会及び日本ハンドボール協会、山口県ハンドボール協会の関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

　今年は、ロンドンオリンピックアジア予選会の開催時期と国体日程が重なり、日本代表選手が国体に参加できない大会となりました。そのことから、北國銀行より主将田代選手をはじめ、チームの主力である5名の選手が国体チームからはずれることとなりました。その為、当部OGの上出さん、故郷選手として、東海大の林選手に参加頂き、石川県選抜チームとして、山口国体に向けたチーム練習を始めることができました。試合経験の少ないメンバーであることから、コンビも合わず、DFもバラバラ、さらに、周りからは5名が抜け、今年の国体は難しいとの声も聞こえ、当初は不安ばかりが先行し、ただひたすら声を出して、ボールを追いかける毎日でした。しかし、みんなの「優勝」をめざす思いは一つ。練習後もビデオを見たり、体育館に残って毎日ひたすら練習に打ち込んできました。職場をはじめ関係の皆様方のご協力

写真提供・スポーツイベント社

写真提供・スポーツイベント社

で、国体チームとしての練習や遠征試合を数多くさせていただきました。そのおかげで、9月にはチームとして戦える力がつき、10月の山口での本番では、試合を重ねるごとにチームが成長し、優勝することができました。

これまで試合に出場できなかった選手がこの国体で力をつけ、個々の技量がアップするとともに北國銀行としてのチーム力も増したのではと思っています。

私は、今回主将という大役を任されましたが、不安の中チームを一つにまとめる苦労、そして勝つことで味わう喜びを体験させてもらいました。

この様な機会を与えていただきました、関係の皆様方には心より感謝申し上げますとともに、今後、さらに大きな目標に向かって頑張りたいと思っていますので、変わらぬご支援、ご声援を賜りますよう宜しくお願い致します。

少年男子：沖縄県

監督　黒島 宣昭

平成23年10月7日～11日まで、山口県周南市で開催されました日本最大のスポーツの祭典であります国民体育大会「おいでませ！山口国体」にて、沖縄県が、6年ぶり3回目の優勝することが出来たことを大変に嬉しく思います。

振り返れば、全国高校総体で準々決勝での敗戦後、チーム戦力を改めて見直し、興南高校を主体にコザ高校から補強して迎えた九州ブロック国体予選で、インターハイの覇者であります小林秀峰（宮崎県）に勝ち抜いて出場権を獲得したのが、選手達に大きな自信になりました。

9月中旬に組み合わせが決まり、かなり厳しい戦いになるのではないかと予想をしていました。1回戦からどのチームもバランスのとれた粘り強いチームで、最後まで気の抜けないスピーディーなゲーム展開で延長戦もあり、準決勝は1点差ゲームで辛くも逃げ切った勝利でありました。そして迎えた決勝では、地元の大声援の山口県戦でした。九州代表としての誇りと小林秀峰（宮崎県）の分まで「優勝をしたい」と、強い思いで臨みました。スピード・パワーがあり得点力も高く、ディフェンスも安定している山口県でありました。しかし、選手は「国体優勝」に燃えていました。「ディフェンスをしっかり守ること」を強調して「楽しくプレイをしてこい」と送り出しました。最高の舞台で、最高のプレイ、全員がコートに立つことができたことや個々の役割をしっかりこなしたことが勝利につながったと思います。今大会での大きな勝因は、チームの「和」とコーチの新垣先生・仲本先生の支えがあったからだと思います。また、県内の小学校・中学校の指導者の方々が、手塩に掛けて育ててくれた素晴らしい選手達に、めぐり逢えたことにとても感謝しています。県ハンドボール協会はもちろん、学校関係者、父母会、多くの方々の力強いサポートがあったからこそ成し得た結果だと思っています。とても感謝しています。今後とも「感謝の気持ち」を

忘れずに、自惚れず、謙虚な気持ちを忘れずに、これからも日々努力していきたいと思っています。

最後になりますが、本大会の開催にあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

主将　東江 雄斗

この程、第66回国民体育大会「おいでませ！山口国体」におきまして、優勝することが出来たことを大変嬉しく思います。

８月に行われた岩手インターハイでは、僕たち興南高校はベスト８という結果に終わってしまい、とても悔しい思いをしました。しかし、『この負けた借りは国体で…』と皆で話し合い、目標を『国体優勝』に切り替え、コザ高校から２人加わって選抜チームとしてパワーアップし、心機一転練習に取り組みました。インターハイ終了後、すぐブロック国体を控え、また厳しい練習にいこうとしましたが、負けたショックが大きくて気持ちを切り替えるのが出来ませんでした。そこはチームでコミュニケーションを図り、励まし、支え合って気持ちを切り替えることができました。

練習は､成年チームとの練習試合を重ねて調整をしました。

そして臨んだブロック大会は、本国体出場権のかかった準決勝でインターハイ覇者の宮崎県と対戦、逆転勝ちを収めその勢いで優勝し出場権を獲得しました。決めたときは、跳び上がって勝利を喜び会いました。

ブロック国体後の練習はきつかったですが、それ以上に楽しくて、琉球コラソンや一般のチームとの練習試合で出た課題の修正を繰り返していくうちに、自分達の成長を実感できました。

そして楽しみに待ち望んだ国体が開幕し、１回戦から決勝まで勝ち上がるまでに延長戦や１点差ゲームなど厳しい試合を経験して、チームの和が更に高まりました。「優勝して沖縄に帰ろう」と臨んだ決勝の相手は地元山口県。大アウェーのなか、僕達は今までの厳しい練習や大接戦をモノにしてきた自信から、決勝という大舞台を楽しみました。試合終了のブザーが鳴った時には、チームみんなで抱き合って喜びの涙を流しました。

写真提供・スポーツイベント社

「勝つことの喜び」や「ハンドボールの楽しさ」を再確認することが出来た意義深い大会となりました。

最後に、沖縄県ハンドボール協会をはじめ、ご支援いただきました全ての方々や、今大会の運営に携わってくださった役員や補助員の皆さんに深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

少年女子：山口県

監督　吉兼 敦生

長い闘いがやっと終わりました。最高の結果なのですが、うれしいという気持ちよりも責任を果たせてホッとしたという思いの方が強いです。時がたつにつれて、徐々に喜びに変わると思いますが…。以下、思いつくままに思いをつづります。

５年前の山口県ハンドボール協会の常任理事会で私が少年女子の監督をすることが正式に決定しました。50年に一度の地元国体の監督を任される名誉と喜び、当時中学生だった「山口国体世代」をどのように強化していくのかという不安

と責任が頭の中をぐるぐる巡りました。2011年、ちょうど私が50歳という区切りのいい年ということもあり、山口国体を指導者としての集大成として位置付け、後悔のないように取り組んでいこうと思いました。

強化の具体的な取組として、中学校の先生方にスケジュール、選手派遣の協力をしていただき、現在の高校3年生が中学3年生の時に能力の高い選手から約30名を推薦していただき、月に1回ペースで講習会をしました。NTSの山口県版という考えで人材発掘・具体的スキルの習得等をめざしました。私が必要だと思っている基本的なスキルのトレーニングやポジションを複数こなしながらのゲームをしました。講習会の回数をこなしていく中で、戦術の理解能力・運動能力・コミュニケーション能力・モチベーション等の適性を把握し、競争意識も持たせながら、徐々に山口県協会強化指定選手を絞っていきました。講習会を通して、早くから自分たちが「山口国体世代」であるという自覚を促し、同時に吉兼という監督の存在を知ってもらい、高校進学時に華陵高校を選択して欲しいという思いで活動しました。中学校の先生方の熱心なすすめもあって、全国中学生大会の優勝メンバーやJOCの優勝メンバーなど多くの山口県協会強化指定選手が華陵高校に進学してきました。華陵高校に着任して13年目ですが、男子と比較して女子は大きな怪我が多いように思います。特に前十字靭帯断裂が多く、手術後復帰までに半年以上の時間がかかります。13年目で延べ13人の選手がACL損傷で涙を流しており、そのほとんどが体育館での練習で受傷したものです。「山口国体世代」の入学後は、ACL損傷を避けるため練習試合・雨天時を除きそのほとんどをグラウンドで練習するようにしました。選手も細心の注意を払ってトレーニングに参加してくれたおかげで、一名のACL損傷もなく大会に臨むことができました。これが一番の勝因かもしれません。

前任校での経験から、インターハイで優勝すると国体での戦いが大変難しいという心配がありました。それは、どのライバルチームも打倒山口で対策を立ててくるからです。また、人間は頂点に立つと頭ではわかっていても気持ちのどこかが満足して、失敗をおそれチャレンジ精神を忘れます。しかし、選手自身が高校総体に次ぐ2冠獲得を口にし、実際の試合会場の雰囲気をシミュレーションしながらトレーニングに取り組んでくれました。山口県での国体ということで、地元メディアから多くの取材を受け、多方面からの高い期待もあって、いやが上でもモチベーションが高まりました。

大会が始まりアリーナは連日多くの山口サポーターで満席になり、華陵高校全校生徒を含む会場全体が一体となったすばらしい応援の中、歓喜の優勝をすることができました。選手たちが中学生の時に始まった私たちのチャレンジでしたが、優勝の瞬間、12名の選手枠を最後まで競いコートに立てなかった選手たちの顔が頭に浮かび、年甲斐もなく少し涙ぐんでしまいました。

私事で恐縮ですが、参加したカテゴリーは違いますが、準優勝の少年男子高杉祐介監督をはじめ、成年男子の東慶一選手（全競技の山口県選手団主将）、成年女子の内冨仁美選手等多くの教え子と共に闘い種別総合優勝を果たせたことを誇りに思います。

最後に、私たち少年女子チームに係わっていただいたすべての方々へ感謝を込めて…。本当にありがとうございました。そして、今後山口県のハンドボール界がますます発展することを祈念し、筆を置かせていただきます。

試合結果

▼成年男子決勝

佐賀　34（15－15、19－18）33　広島

【戦評】先制は広島9番・新のポストシュート。佐賀は11番・石黒のミドルシュートで応酬。15分過ぎ、佐賀がキーパー1番・松野の好守、6番・村上のサイドシュート、3連続速攻などで10対5とリード。たまらず広島はタイムアウト。その直後、11番・古家のステップシュートでリズムを取り戻したかにみえたが、佐賀のディフェンスを前になかなか得点差を詰められない。しかし、佐賀が23分過ぎに退場者を出すと、広島は6番・東長濱がミドルシュートを決め、15対15の同点で前半を終える。

後半、広島5番・今井のポストシュート、佐賀10番・藤山のカットインと両者譲らず、広島1番・仁平がミドルシュートを決めるとすぐに佐賀2番・中畠の速攻と両者譲らない。佐賀は10分過ぎ、ディフェンスからリズムをつくり素早い展開でリードを奪っていくが退場者を出して詰められる。20分過ぎから一進一退の気迫のこもった激闘となる。広島が6番・東長濱のカットインでリード、しかし佐賀3番・西端のミドルシュートで同点に。残り10秒、フリースローの笛から素早く展開、残り1秒で10番・藤山のカットインが決まった佐賀が激闘を制し、優勝した。

▼成年女子決勝

石川　34（19－9、15－13）22　熊本

【戦評】開始早々、石川10番・後藤のカットインで先制。熊本も3番・高田が得点するが、石川が11番・翁長、3番・鰍場のサイドシュートで連続得点、一気に波に乗り10分過ぎに石川が10対3とリードを奪う。たまらず熊本はタイムアウトを取るが、石川の堅いディフェンスを突破できずになかなか得点できない。熊本は5番・稲葉のステップシュート、10番・久野のカットインなどで気迫を見せるが、石川は6番・石野のミドルシュート、GK 1番・寺田のファインセーブもあり流れを渡さず、前半を19対9のリードで折り返す。

後半開始、石川は11番・翁長が連続得点。熊本も5番・稲葉、8番・前田のサイドシュートで応酬、9番・吉田も気迫あふれるプレイを見せる。石川は退場者の出た不利な時間帯もディフェンス、GKの好守でもちこたえる。20分に石川7番・八十島の速攻も決まり、29対19と点差はなかなか縮まらない。熊本も最後までよく戦ったが、序盤のリードを守り試合を優位に進めた石川が勝利した。

▼少年男子決勝

沖縄　28（14－13、14－14）27　山口

【戦評】沖縄が8番・下地のロングシュートで先制するが、山口も5番・角田の速攻で同点。2対2の同点後、沖縄が3連続得点し優勢にゲームを進めるかに見えたが、流れは山口に移り、4番・堀の速攻などで5連続得点し逆転。その後、沖縄は7番・東江の力強いプレー、山口は7番・大久保のサイドやポストでの好プレーで互角の戦いを繰り広げて、沖縄が14対13の1点リードで前半が終了した。

後半になると、互いに1点を死守すべくディフェンスの動きが激しくなる。混戦の中、まずは沖縄が9番・仲田、5番・比嘉のロングシュートなどで3点連取し、優位に立つ。山口は沖縄の展開の要の7番・東江にプレスディフェンスをし、攻撃を防ごうとするが、9番・仲田に後半7得点を許し、18分過ぎには沖縄に4点リードされる。山口も残り3分で4番・堀のフェイントでの粘り強いプレーなどで3点連取し、残り1分には1点差に追い上げるが、終了のブザーが鳴る。山口は地元の大声援のもと検討したが、28対27で沖縄が接戦を制した。

▼少年女子決勝

山口　27（13－10、14－10）20　香川

【戦評】山口は5番・築山の連続得点、7番・松本のミドルシュート、12番・水落の好セーブでペースをつかむ。立ち上がりに堅さがみられた香川は、5分にタイムアウトをとって立て直しを図るが、山口の堅いディフェンスに苦労し、前半14分には8点差がつく。このまま山口のペースかと思いきや香川も8番・内海や6番・久原のサイドシュートで反撃。ディフェンスも立て直し、山口の加点が7分間止まった。前半終盤は香川も徐々にペースを取り戻し、じわじわと山口との点差を詰め13対10で前半を終了した。

後半、立ち上がりから3番・宇佐川のポストシュートや2番・河野のサイドシュートが決まり山口は波に乗る。3点ビハインドを早く追いつきたい香川も4番・谷を中心に攻撃を展開し、12番・深江の好セーブ、7番赤松のポストシュートなどで追いかける。しかし、山口は9番・田村、8番・岩崎、7番・松本、5番・築山らの確実な加点と反撃を許さない完成度の高いデイフェンスで香川の猛攻を凌ぎきり、48年ぶり2回目の国民体育大会優勝の栄冠に輝いた。

第4回女子ユースアジア選手権

2012 世界ユース選手権予選

順位	
1位	韓　国（4勝）
2位	**日　本（3勝1敗）**
3位	カザフスタン（2勝2敗）
4位	イラン（1勝3敗）
5位	カタール（4敗）

今大会2位となり、第4回女子ユース世界選手権（2012年7月・モンテネグロ）の出場権を獲得

第4回女子アジアユース選手権大会を開催して

熊本県ハンドボール協会事務局長　**奥園 栄純**

来年、モンテネグロで開催される世界ユース選手権大会のアジア代表3枠を決める大会を9月22日から28日まで、本県の山鹿市で開催させていただく機会を得ました。

6月初旬に日本協会から川上専務理事と江成常務理事と国際担当の茂木さんにわざわざ熊本においでいただき、熊本県協会の緒方副会長と大宮理事長が大会の概要等の説明を受け、諸条件をクリアできるかどうかを検討し、開催の運びとなりました。

年度途中での話でしたので、一番の問題は会場の確保でしたが、山鹿市の社会体育課のご好意で調整していただき、会場を確保することができました。ご存知のとおり、山鹿市はオムロンチームのお膝元であり、これまでも数々の大会でお世話になっており､いろいろな無理難題等も聞いていただき､県協会にとっては非常に心強い存在です。これもオムロンチームが地域の子ども達にハンドボールの指導をしたり、地域のボランティアに参加したり、地元と密着した活動を行っている事も大きな要因となっています。

本大会は韓国、カザフスタン、イラン、カタールに日本を加えた5チームによる総当り戦方式で開催されました。本県ではこれまで1997年の男子世界選手権をはじめ、2000年のシドニーオリンピックアジア予選、2008年の東アジアクラブ選手権、ジャパンカップなで数々の国際大会を開催してきましたが、国際大会は国内大会とは異なり、言葉の問題や文化の違いなど気を使わなければならない課題が数多くあります。特に今回は中東アジアからイラン、カタール、中央アジアからカザフスタンの参加があり、これまでの国際大会とは違った気遣いもありましたが、日本協会のご指導により大きなトラブルもなく､どうにか乗り越えることができました。

また、大会は平日を含む長期間の開催となりましたので、運営には県協会の役員、地元山鹿市協会の関係者、オムロンの選手・OG、地元城北高校の部員など多くの皆さんの献身的なご協力がありました。無事開催することができましたが、折角の国際大会の機会をいただきながら、充分なPR、集客ができず満足いく大会開催とは言えず申し訳なく思っているところです。しかし、やはり国際大会には独特の雰囲気があり､特に中東勢が試合中もルーサリー（頭に着けるスカーフ）を着けて試合をする姿など、観戦に来た小中高生には物珍しい姿として映り、アジアの広さやハンドボールという競技の国際的な繋がりを感じ取ることができたのではないかと思います。また、国際ルールでは1試合でタイムアウトが3回、ハーフタイムが15分と国内大会との違いもあり、アジア連盟の役員からは日本はまだ旧ルールでやっているのかと言われる場面もあり、貴重な経験をすることができました。

さらに、最終日には市原日本協会副会長・JOC副会長もお出でいただき、優勝を決する日韓戦、表彰式、フェアウェルパーティーにもご対応いただき、和やかな雰囲気の中、無事大会の全日程を終了することができました。

今回、本大会に参加したアンダー18の選手が自国を代表し、オリンピックの出場権をかけて再度、雌雄を決することを楽しみにし、大会の報告とさせていただきます。

女子ユースアジア選手権に参加して

女子ユース監督　亀井 好弘

1．大会までの道のり

本大会が、急遽、日本（熊本県山鹿市）で開催されることとなり、その責任の大きさを感じながら強化活動に取り組んでいきました。具体的には、７月と８月に強化合宿、そして９月に実戦形式の直前合宿を行い、大会入りしましたが、大会をむかえるまでの道のりは順調に進んだわけではありませんでした。７月の選手選考を兼ねた強化合宿では、チームの主力に考えていた選手の所属チームから、アジア大会に対する辞退の連絡があり、残念ながら不参加となりました。さらに、９月の大会直前合宿前に、選手16名のうち３名が怪我をし、アジア大会出場を断念せざるを得ない状況となり、選手はGKを含めわずか13名となりました。また、その直前合宿中に、主力選手が怪我するなど不安要素をかかえての練習でしたが、武庫川女子大学ハンドボール部のご協力も頂きながら、強化活動を終えて、熊本入りしました。

2．大会期間中

熊本県山鹿市では、日本ハンドボール協会や熊本県ハンドボール協会、そしてオムロンハンドボールチームの選手の皆様や、様々な要望に応えていただいた旅館、さらにハンドボールが地域に根付いている山鹿市民の皆様など多くの方々から、ご支援、ご協力を頂きました。また、平日にもかかわらず力強い声援を頂いた多くの観客の皆様など、全ての面において何の不安もなく、まさに地の利を活かした素晴らしい環境で臨めたことに対し、心より感謝申し上げます。

オープニングのカタール戦では、相手選手がヒジャブと呼ばれるスカーフのようなもので頭巾のように頭を覆って試合をするなど、国際色豊かなスタートとなりましたが、力の差を見せて圧勝することができました。２戦目のカザフスタン戦では、183㎝の長身選手に苦しめられ前半を１点リードで終了し、後半は日本の堅守速攻が冴えて、勝利することが出来ました。３戦目のイラク戦も自力の差があり圧勝して、ターゲットとしていた韓国を全勝同士でむかえることとなりました。前半は、韓国の１対１に対してフットワークを使いボールサイドを厚く守って相手の攻撃を凌ぎ、３点リードで折り返しましたが、後半スタートより相手の鋭いディスタンスシュートが決まりだすと、広いスペースを作られたところでカットインを許すなど、１点を争う展開となりました。さらに、後半中盤より、韓国がプレスディフェンスを仕掛けてきたのに対し、攻撃も機能することができず、逆転負けとなりました。

韓国戦後、「準備段階でしておかなければならなかったこと」と「試合中にベンチが動かなければならなかったこと」の２点について、私の頭の中に映像となって流れ続けました。

3．大会を終えて

韓国に敗れたものの選手達は、スタッフが求めていることに対して応えようと一所懸命、素直に練習に取り組んでくれました。そして、自分たちより大きな選手やスピードある選手に対して臆することなく戦ってくれました。しかし、あえて厳しいことを言うなら、指導者も選手も、ただ大会に参加しただけでは何の経験にもならず、今回、肌で感じた経験から何を考え、何を思い、大会後の意識や行動がどのように変わったが重要であり、参加させて頂いた我々にはその義務があると強く感じています。その意味において、国際大会の経験により、今大会出場した選手達が大きく成長してくれることを願っております。

また、ナショナルトレーニングシステムなどにより、以前より個の育成に対する一貫指導が根付いてきたと思いますが、様々な局面における戦術について、いろいろな方法論があり、短期間でチームとして機能させる難しさを感じた大会となりました。

最後になりましたが、国体前の貴重な時期に、選手を派遣していただいた各所属チームの先生方、そして最高の環境で強化合宿をさせて頂いたANTCのスタッフの方々、また合宿を快く引き受けてくださった武庫川女子大学、オムロンハンドボールチームの皆様、いつも気にかけて下さりアドバイス頂いた川上専務理事、西窪強化部長、荷川取女子強化部長をはじめ日本ハンドボール協会の方々、熊本県ハンドボール協会の皆様など、本当に多くの方々からご支援、ご協力賜り、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

試合結果

◆9月23日

日　本　41（21－2、20－8）10　カタール

【戦評】世界選手権予選という緊張感の中、プレッシャーがあったのか、日本は序盤ミスが出る。しかし攻守に勝る日本はオフェンス・ディフェンス共に落ち着いたプレーで得点を重ね、21対２の日本リードで前半を折り返す。

後半はカタールも少し試合に慣れ得点を重ねるが、攻守共に勝る日本がスターティングメンバー全員が５点以上をあげる活躍で、41対10で圧勝した。

【個人得点】上田・木村：８点，三田・山田：６点，綿引・羽祢田：５点，今枝：２点，藤原：１点

カザフスタン　48（25－15、23－18）33　イラン

◆9月24日

日本　40（19－18、21－10）28　カザフスタン

【戦評】日本15番・森の１対１からのカットインでスタートした試合。日本はポストの動きと合わせた１対１からのずらしやコンビプレーでの得点。カザフスタンはサイドやセンターの動きに合わせた４番と５番の両45度のミドルシュートやロングシュートで得点する。両チーム共、得意のパターンの連続で得点を重ね、一進一退の好ゲームとなるも、前半は19対18で日本の１点リードで折り返す。

後半、日本はディフェンスが良くなる。カザフスタンの４番・５番をしっかり守り、お家芸の速攻もからめ10分間で７連続得点し、ゲームの主導権を握る。日本は有利にゲームを進め、途中カザフスタン４番・左45度のエースに得点を許すが、日本の勢いは止まらず、前半以上の得点を重ねトータル40対28で日本がカザフスタンに快勝した。日本は４番佐々木、９番上田が10点、三田が８点、カザフスタンは４番エースが15点と活躍した。

【個人得点】佐々木・上田：10点，三田：８点，森：７点，綿引：２点，堀川・羽祢田・山田：１点

韓国　40（19－9、21－10）19　イラン

◆9月25日

韓国　43（23－2、20－5）7　カタール

◆9月26日

日本　36（22－9、14－7）16　イラン

【戦況】日本は堅い守りでリズムを作り、５分で５得点という良いすべり出しで主導権を握った。その後もお家芸の速攻をおりまぜながら、22対９と大量リードをして前半を終えた。

後半は10分過ぎまで一進一退の展開であったが、13分から10分間で相手イランを１点に抑え、日本は８得点し勝利を決定づけた。最終的にトータル36対16で日本がイランを圧倒した。

【個人得点】上田：８点，三田：７点，山田：６点，木村：５点，藤原・今枝：３点，綿引・羽祢田：２点

カザフスタン　39（20－5、19－9）14　カタール

◆9月27日

韓国　47（24－18、23－11）29　カザフスタン

◆9月28日

イラン　52（21－4、31－7）11　カタール

韓国　27（9－12、18－8）20　日本

【戦評】お互い堅い守りで相手の攻撃を抑える展開で試合は始まった。日本は、韓国の流れを読んだ15番・森と４番・佐々木のパスカットからの連続得点で良いすべり出しとなった。その後も多彩な攻撃で着実に加点する日本であったが、22分からミスが目立ち、韓国に３連続得点を許し２点差に詰め寄られる。しかし４番エース佐々木のロングシュートが決まり、前半を12対９で日本の３点リードで折り返す。

後半、韓国は高いディフェンスラインから攻撃的にディフェンスをしかけてくる。日本は攻撃しきれず、15分から24分までの９分間に５連続得点を許し逆転されてしまう。その後も韓国の力強い攻撃を止めきれず加点され、27対20で韓国に敗退。韓国は４戦全勝で優勝した。

【個人得点】佐々木：８点，森：４点，上田・三田：３点，山田：２点

医事委員会だより

第４回女子ユースアジア選手権　救護報告（井本光次郎／佐久間克彦：熊本赤十字病院）

熊本県山鹿市総合体育館にて第４回ハンドボール女子ユースアジア選手権（参加５カ国）における大会会場での救護活動を行ったので報告する（2011年９月23日～９月28日）。

毎試合コート脇にて待機、医師、看護師の２名体制とした。医師井本光次郎（熊本赤十字病院整形外科）が全日程参加、看護師は山鹿市立医療センター（９月23～25日）／熊本赤十字病院（９月26～28日）から派遣協力を仰いだ。さらに、接戦が予想された最終日には日本協会／熊本県協会の意気込みを示すDisaster Rescue Car（特殊医療救護車両）の配備を行った。この車両は、熊本赤十字病院が所有し2000年７月の沖縄サミットでの救護から2002年FIFAワールドカップなどのスポーツイベント、最近では2011年東日本大震災においての活動実績があり現場での国内最高峰の設備を有している。

大会期間中入院を要する傷病は発生せず、負傷者および救護活動は以下の通りであった。

９月24日、審判の体調に対して処置。

９月26日の試合にてカタール選手の腰部打撲の対応。また顔面打撲／鼻出血／めまいの処置後に地元山鹿市立医療センターへ搬送。

以上、大過なく救護活動が行えた事を報告致します。

熊本赤十字病院 整形外科　**佐久間 克彦**

第15回女子U-16日韓スポーツ交流（派遣・受入）

派遣：9月15日（木）～20日（火）韓国・ソウル　受入：9月21日（水）～26日（月）愛知県名古屋市・ブラザー工業体育館

U-16日本代表女子監督　尾石 智洋

今回で15回目を迎える日韓交流ですが、打倒韓国の気持ちを強く持ち、日本代表チームとして団結力・結束力の向上や個人戦術の伸長及びチーム戦術の共有を限られた期間ではありますが、考えて活動してきました。

また、韓国のフットワークや個人技能において、たくさん学ぶものがあります。それを謙虚に学ぶ姿勢を持ち、韓国スタッフや選手同士で語り合うことは、選手はもちろん指導者にとっても大変ためになります。深く入り込んで学ぶ姿勢が今後も大切だと思います。これは、互いに交流の意識を高く持てないとできないことです。それが今の日韓の間では、出来ていると思います。なので、合同練習や練習試合を行い日本チームに足りないことをみんなで考え、練習し親善試合に挑みました。

今年度は、オリンピック予選がありANTCを使用せず、HC名古屋と愛知県協会のバックアップのブラザー工業の体育館にて大会を盛大に行ってくださいました。日本代表としての自覚を持ってユニホームを着られたと思います。

日本のDFは心の込もったDFになったと思います。そこから早いタイミングでの速攻にまで展開できました。両サイドのスピードは韓国にも引けを取らないものでした。大きな課題はOFで、真ん中2人の大きなDFをどうするかでした。185cmと178cmのDFをはがすことができるようにポストとセンターのコンビ中心に展開しました。強く攻撃できた点が良かったと思います。結果、31対30にて勝つことができました。選手たちの絶え間ない努力と、これまで関わってきた沢山の方々の熱い思いがこの勝利を呼んだのだと思います。まだまだ鍛え上げなくてはいけない事もたくさん見つかりましたが、自信を持って取り組めるきっかけになることと思います。日本人の誇りを持ってこれからも頑張ってほしいと思います。この活動の課題などをしっかりまとめ、今後に繋げていくことも大切なことと思います。大村団長、高野コーチ、辻コーチ、原田さん、宇賀神トレーナーとの役割分担も今回の成果に繋がったと思います。

最後になりましたが、角紘昭様、田中俊行様をはじめ、愛知県協会の方々やHC名古屋の方々には大変お世話になりました。また、韓国のオウヘッドコーチをはじめ、選手同士の交流も有意義のあるものになりました。更に各所属チームの監督にはたくさん応援していただき大変感謝しています。また、名古屋市内の沢山の中学生の方々や保護者の方々にたくさんの声援をいただきました。ありがとうございました。

U-16日本代表女子キャプテン　山本 佳子

今回、私達16人が全員揃って練習をすることができたのは韓国に行く前の直前合宿の日でした。それまでにU-16での練習がありましたが、怪我などで全員集まれず、それぞれ不安があったと思います。でも、勝ちたいという気持ちは皆一緒で韓国に向かいました。

韓国での親善試合は、最初の出だしが良かったけどミスからの逆速攻で引き離されてしまいました。しかし3点差まで縮めることができましたが、そこから2点差、1点差にすることができず、結果的には7点差で負けてしまいました。

私達は残された日本での親善試合で勝つことに一生懸命になり、だんだんチームとしてもまとまっていきました。

そして日本での親善試合は、前半韓国にムードを持っていかれないように必死に追い掛けて14対14で同点でした。後半は、途中日本が5人になった場面がありましたが、皆焦らず苦しい時こそ声出して、一つ一つ守っていきました。そして最後は日本が走り勝ちました。日本での試合は、練習したことをしっかり出せ、試合中に落ち込む時間帯がなく、ベンチとコートが一つになって最高の笑顔で喜ぶことができたので本当に楽しかったです。そして、ずっと勝てなかった韓国にチーム全員で戦って勝って、U-16という大きな舞台で先生方を胴上げすることができ、とても嬉しかったです。本当に忘れられないU-16になりました。

U-16に選ばれて、このメンバーに出会えて、このメンバーで勝利できたことに感謝です。この経験を生かしこれからもがんばって練習に励みたいと思います。沢山の応援ありがとうございました。

試合結果

【韓国ラウンド　9月18日（日）韓国】

日本　22（6-13, 16-16）29　韓国

韓国10のサイドシュートで先制点を取られスタート。韓国6のフェイントや韓国3の自由自在な戦術にて先行される展開。日本も谷のミドルやカットから團、橋本の速攻でついていくが、シュートミスも多く、前半苦しんで終了。

ハーフタイムではDFの修正と強気のシュートを目標に展開。立ち上がり果敢なDFにより連続得点。3点差まで追い上げる。そこで韓国に退場者が出て、日本チャンス到来。しかしこの場面攻めきれず課題を残す。OFでの攻撃力がまとまらず、個人技で竹原、江藤に頼る日本に対して、韓国に得意の速攻をやられ負けた。日本ラウンドに向け立て直しにかかる。

【日本ラウンド　9月24日（土）日本・名古屋】

日本　31（14-14, 17-16）30　韓国

韓国15のサイドシュートにて先制点。その後日本のDFも安定し北原の速攻で得点。韓国3のカットインや韓国22（185cm）の大型ポストで得点されるものの、日本の両サイド、團、橋本南の得点や北原、谷のカットインでついていく展開。前半14対14の同点で終了。

後半韓国はセンター河原畑に厚いDFを仕掛けてきた。それでも果敢に攻め、ミドル・カットインを決め河原畑の大活躍。30対30同点で残り1分ポストの中川が気合の1点を取り31対30。ラストノータイムフリースローを凌ぎ、U16の歴史的勝利をあげた。チームが1つになる心のこもったDFと全員で果敢にシュートを狙いに行ったことが、勝因だろう。

ハンドボール経験者の会・界友会開催

2012ロンドンオリンピックアジア予選を目前に控えた9月30日（金）に、政界・産業界で活躍されているハンドボール経験者による「日本代表オリンピック出場を祈念する会」が銀座・交詢社で開催されました。

今年で4回目となる本会は、会長・福井俊彦氏（元日本銀行総裁、東大OB）をはじめ、各界から100名を超える会員の皆様により、渡邊佳英会長をはじめとする日本協会役員、スタッフ、オリンピアンが招かれ、熱い激励を頂きました。

今年はオリンピック予選の年でもあり、界友会の参加者が90名余り、全体では120名近くが集い、会場は熱気に包まれました。はじめに福井会長からご挨拶と乾杯が行われ、歓談が行われました。その後、渡邊会長より協会挨拶、アジア予選団長の川上憲太専務理事より、取り組み状況の紹介、西窪勝広常務理事・強化本部長より決意表明、最終調整のために海外遠征中の酒巻清治男子日本代表監督、黄慶泳女子日本代表監督のメッセージが紹介されました。また、市原則之副会長（JOC副会長兼専務理事）より、日本スポーツ界のロンドンオリンピックに向けての取り組みについてお話がありました。

続いて、界友会から黒住宗晴氏（黒住教本部教主、京大OB）、迫本淳一氏（松竹株式会社代表取締役社長、慶応高OB）より、それぞれ日本代表及び日本協会に対する激励の言葉を頂きました。さらに、ハンドボール振興議員連盟から鶴保庸介事務局長（参議院議員、日本協会副会長）、谷田川元衆議院議員（千葉県協会会長）、齋藤健衆議院議員（日本リーグ機構副会長）からも熱いメッセージを頂きました。

大盛況の中、多田博副会長のご挨拶で中締めとなりました。皆様の熱い期待に応えるべく、協会役員一同、気持ちを新たにアジア予選を勝ち抜き、オリンピック出場権を獲得することを誓いました。

界友会事務局・日本ハンドボール協会常務理事　藤森　徹

福井俊彦氏・界友会会長

渡邊佳英・日本協会会長

川上憲太・日本協会専務理事

西窪勝広・常務理事

市原則之・ＪＯＣ副会長兼専務理事

俳優の西村和彦氏も駆けつけて下さいました

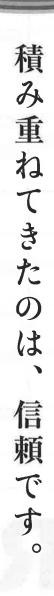
鶴保庸介・ハンドボール振興議員連盟事務局長

谷田川元・衆議院議員

齋藤健・衆議院議員

黒住宗晴氏・黒住教教主

迫本淳一氏・松竹株式会社代表取締役社長

多田博・日本協会副会長

各競技団体の機関誌発行状況：機関誌専門委員会

（公財）日本体育協会加盟の各競技団体は機関内の情報伝達として機関誌とWEB（ホームページ）を活用しているが、インターネット社会の今日、従来型の情報伝達手段である「機関誌」の利用・発行実態について、各競技団体のWEBから調査をした。

WEBは、一般ファンへの情報発信と機関内への情報伝達の機能を併せ持ち、情報の新鮮度（リアル性）に優れている。一方の機関誌は購読料を払えば一般ファンも情報を入手できるが、基本的にはチーム登録料の中に機関誌購読料が含まれており、登録チームを含む機関内の情報伝達として機能している。今回（2011年10月時点）の調査では、明らかに機関誌との棲み分けを明確にしている団体は下記の表のとおりであるが、表に無い団体が機関誌を発行していないと断定できるには至っていないことをご理解願います。

現状を観れば、掲載情報・動画配信などWEBの発展に注目すべき点が多いが、他方、機関誌についても一覧性と保管性の観点からも当面は相互の情報伝達手段を併用していくものと推察される。今後は、何を掲載するのか、どのような情報を伝えていくのか、機関誌とWEBの両面から考える時期にあると思われる。

競技団体名	機関誌創刊時期	現在までの発行号数	発行回数〔年間〕と名称	購読料〔年間〕	直近の機関誌の主な目次	HPでの機関誌の公開状況
（社）日本ボート協会		506号	7 「Rowing」	4000円	・大会報告　・委員会便り ・災害復興ボランティア活動紹介 ・理事会便り	表紙と目次のみ掲載（但し、2005年4月以降分）
（財）日本水泳連盟	1930年8月	推定700号	12 「月刊　水泳」	4200円	・大会報告　・地方連盟報告 ・トレーナー報告　・国際報告 ・検定会報告　・寄付報告	1号から163号（1965年12月）までを公開中
（財）日本サッカー協会	1931年10月「蹴球」	329号	12 「JFA NEWS」	5000円	・トップインタビュー　・大会報告 ・特別企画（世界への挑戦） ・リポート（JFAアカデミー） ・CLOSE-UP（8人制サッカーの検証） ・連載（ロンドン目指して・メディカル・子供のサッカーとコンディショニング・ひと）	
（財）日本テニス協会			1 「JTA NEWS ANNUAL REPORT」	300円	・トップインタビュー　・事業計画 ・地域協会の活動　・予算・決算報告	
（社）日本ホッケー協会		139	4 「ホッケーマガジン」	2000円	・大会報告　・TEAM CLOSE-UP ・都道府県協会便り　・委員会ニュース ・理事会ニュース　・リポート　・コラム	2000年1月以降分について、表紙と目次を公開
（財）日本体操協会		151	2～4 「体操」		・理事会議事録　・評議員会議事録 ・大会報告　・トピックス	2002年より、機関誌は全てHPでの公開に切り替え（製本無し）
（財）日本卓球協会			4 「JTTA　NEWS」		・大会報告　・決算・予算報告	
（財）日本ソフトボール協会		293	11 「JSAソフトボール」	2000円	・大会報告　・理事会報告 ・評議員会報告　・ソフトボール情報 ・ナショナルチーム報告	
（財）日本ラグビーフットボール協会		推定301号	5 [RUGBY FOOTBALL」	3000円	・大会報告　・委員会便り　・各協会便り ・連載（ラグビースクール・誌上博物館・日本ラグビー伝・クラブチーム紹介）	直近、1年分の表紙と目次のみ
（財）日本ソフトテニス連盟			12 「Soft Tennis」	3600円	・大会報告　・国際交流レポート ・練習・戦法「100」撰　・医科学レポート ・ワンポイントレッスン ・地区・地方大会報告　・支部ニュース	2005年4月以降の表紙と目次のみ
（財）日本ハンドボール協会	1960年6月	522号	9 「ハンドボール」	3300円	・トップページ　・大会報告 ・委員会報告　・ロンドンを目指して ・コーティング研究報告	発行後、6ヶ月経過の機関誌は中味含め全て公開

～アジアの盟主になれない？～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

日本ハンドボール界の悲願であるオリンピック出場は、アジア予選を勝ち抜けなかった。来年開かれる世界最終予選への道は残されているが、正直なところ厳しい現実と言わざるを得ない。

アジア予選では、男子は88年のソウル大会以来24年ぶり、女子はモントリオール大会以来36年ぶりの出場に期待がかかったが、韓国という大きな壁に阻まれた。

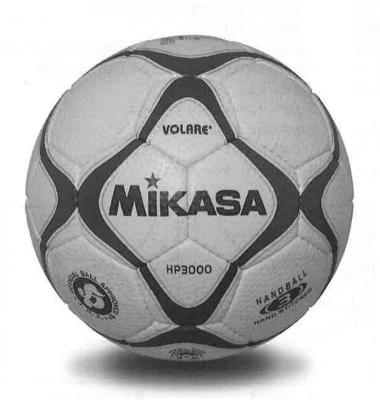
４戦全勝同士の対決となった女子は、前半１点のリードだったが、後半は地力を発揮した韓国に逆転を許した。男子は初戦の日韓対決での惨敗がすべてであった。

では、日本はアジアの盟主になれないのか。そうだとすれば、毎回同じ繰り返ししかならない。何としても「盟主」にならなければ、オリンピックという舞台は踏めない。

話はそれるが、終盤を迎え激しい首位争いを繰り広げているJ1リーグを観戦した。J1復帰のシーズンで優勝すれば、Jリーグ史上初という快挙を達成する可能性のある柏と広島のカード。その柏の戦いぶりは実にしたたかだった。先手を取られたものの落ち着いた試合運びで逆転勝ちした。監督は「頭を使う戦い」と胸を張るが、選手全員が勝利するために何が必要かを理解し合い、実行できるというところに底力が見えた。あえて危険は犯さない、無理に攻め込まない、バランスを崩さないといった試合運びは、ピッチ上の選手が冷静に戦況を分析する力を持ち合わせていると言ってもいいだろう。ベースは守備重視の基本戦術。それを全員が理解し、共有しているからこそではないだろうか。

サッカーとハンドボールは違うが、そうした戦いは見習うことも多いはずだ。多くの競技の結果を分析して、少しでもハンドボール強化に役立てることがあれば、活用したいものである。

とにかくオリンピック出場、アジアの盟主に君臨することは、ハンドボール界の活性化につながる。開催中の日本リーグのファン層開拓にもつながるし、リーグの魅力も多くの人たちが共有できるのではないかと思う。

先のアジア予選はメディアもかなりの力を入れて報道した。このまま「放置」する手はない。リーグ報道を積極的に取り組み、サポートすることが重要だ。「アジアの盟主」へ素早く力強い歩みを始めたい。「また、4年後」では遅い。地力をつけ、選手層を厚くし、チーム内での競争をいっそう厳しいものにしていきたい。早く対策を講じなければ、スポーツ界から、メディアから置き去りにされる危機感を抱くこのごろである。

第9回ハンドボールコーチング研究会は、平成23年3月12日駒澤大学において開催が予定されていましたが、前日の3月11日に大震災が発生したことにより中止となりました。

そこで研究会で発表予定であった内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。

今月は清水宣雄先生（国際武道大学）の発表内容「ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズム構築に関する研究」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズム構築に関する研究

―戦術プレイのコンセプトとトレーニング法―

清水 宣雄（国際武道大学）　東　俊介（大崎電気）

キーワード：戦術プレイ、ユニットプレイ、パーツプレイ

1. はじめに

大西はセットオフェンスを「位置取り」「きっかけ」「展開」「突破」「シュート」の5つの局面に分類し、その中でも「きっかけ」と「突破」が特に重要であると述べている[3)]。実際の試合においても、各チームは工夫を凝らし、様々な「きっかけ」を導入している。一定のレベルに達したチームでは、「きっかけ」によって生じた状況をプレイヤーが正確に判断し、創造的で的確なプレイの「展開」から、「突破」を図っている。しかし、そのレベルに達していないチームでは、「きっかけ」が形骸化し、以降の「展開」を進展できないことが多い。

土井は現行の戦術トレーニングの問題点を指摘し、「代表的な標準状況での解決策を偶然に見つける状態（試行錯誤による学習）」から「いろいろな行為の可能性の中から状況にあった選択を行う（モデルに関する学習に基づく）こと」への方向転換が求められるようになってきていると述べている[1)]。

筆者等はハンドボールにおける「かた」の創設を目指し、基本プレイ・アルゴリズムの構築を試みてきた[2) 4) 5) 6)]。これは、この考えを具現化するものであり、「かた」こそが、状況に応じて選択されるモデルに他ならない。

本研究においては、「きっかけ」からの「展開」が不十分であるチームを指導対象として、戦術プレイのコンセプトを構築し、そのトレーニング法を示した。

2. 戦術プレイのコンセプト

本研究においては、「きっかけ」として実行されることが多い、俗に「サイドユーゴ」と呼ばれる移動攻撃を題材とした。（図1参照）

これは、右からの展開によって、センターからパスを受けたエースフローターが、浮いて来たオープンサイドにパスした後、センター方向へ大きく移動し、その後方をセンターが左方向へ大きく移動するという攻撃である。言換えれば、ボールを保持しないプレイヤー同士のポジションチェンジによって、マークミスの誘発を狙っていると考えられる。

(1) 展開（アセンブリープレイ）

サイドからセンターへパスされた後の展開を構築すると以下のプレイになる。（図2参照）

①そのままシュート

②オープンサイドへリターンパス

③センター方向に移動したエースへパス

④ポストへパス

同様に、サイドからセンター方向に移動したエースへパスされた後の展開も構築することができる。（図3参照）

①そのままシュート

②オープンサイドへリターンパス

③外方向に移動したセンターへパス

④ポストへパス

⑤右のフローターへのパス

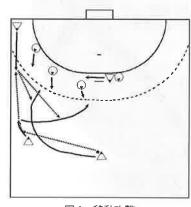



図1　移動攻撃

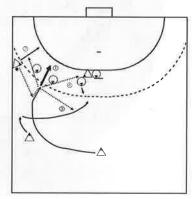



図2　展開（センター）

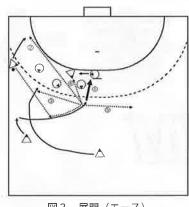



図3　展開（エース）

図4　ユニットプレイ

2・3名のプレイヤーによる、これらの選択プレイの集まりを、アセンブリープレイとする。

（2）ユニットプレイ

一定のレベルに達していないチームでは、展開を構成する各プレイが上手くできないことが多いので、個々のプレイを取り出してトレーニングする必要がある。この2・3名のコンビネーションプレイを、ユニットプレイとする。

図4に、この移動攻撃における、エースとサイドのユニットプレイを示した。

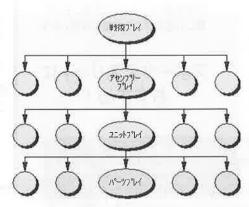
（3）パーツプレイ

一定のレベルに達していないプレイヤーは、ユニットプレイを上手くできないことが多いので、ユニットプレイの中から、個人のプレイする部分を抜き出して、トレーニングする必要がある。この個人のプレイを、パーツプレイとする。

図5に、このユニットプレイにおける、エースのパーツプレイのトレーニング法を示した。

（4）コンセプト

筆者等の考える戦術プレイのコンセプトを図6に示した。戦術プレイは複数のアセンブリープレイから構成され、アセンブリープレイは複数のユニットプレイから構成される。さらに、ユニットプレイは複数のパーツプレイから構成されている。

一定のレベルに達していないチームにおいては、戦術トレーニングとして、ユニットプレイ・パーツプレイを重視するべきである。

ここで重要なことは、一見、個人のプレイであるパーツプレイが、直接的に戦術プレイに繋がっているということである。

本来、全ての練習は、試合に直接結び付くものでなければならないが、往々にして、シュート練習等がマンネリ化して、練習のための練習になってしまいがちである。しかし、単純なシュート練習も、戦術プレイの中のパーツプレイとして構築することによって、状況がより明確になり、より実戦的なプレイとして、練習することができるようになる。

3. まとめ

戦術トレーニングの向上に寄与することを目標として、戦術プレイのコンセプトを構築し、そのトレーニング法を示した。

「きっかけ」として実行されることが多い、俗に「サイドユーゴ」と呼ばれる移動攻撃を題材とし、戦術プレイは複数のアセンブリープレイから構成され、アセンブリープレイは複数のユニットプレイから構成され、ユニットプレイは複数のパーツプレイから構成されているとした。

未熟なチームにおいては、戦術トレーニングとして、ユニットプレイ・パーツプレイを重視するべきである。

4. 文献

1）土井秀和（1992）ボールゲームにおける戦術トレーニグの研究．大阪教育大学紀要，41-1：pp.69-82.

2）松　喜美夫ほか（2002）ハンドボールにおけるポストプレイのステップに関する研究．函館大学論究，33：pp.41-52.

3）大西武三（1969）ハンドボールのゲームにおける局面の構成について．筑波大学体育科学系紀要，20：pp.95-103.

4）清水宣雄ほか（2002）ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズムの構築に関する研究，２対２の局面における突破について．茨城大学教育実践研究，21：pp.97-112.

5）清水宣雄ほか（2004）ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズムの構築に関する研究，ゴールキーパーとシューターの駆け引きについて．ハンドボール研究，6：pp.75-79.

6）清水宣雄（2010）ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズムの構築に関する研究，レフェリングのコンセプト．ハンドボール研究，6：pp.75-79.

図5　パーツプレイ

図6　戦術プレイのコンセプト

株式会社FDR・フレンディア

さらに新しくなりました！

ドクター・水素水®

NEU PREMIUM

ノイ プレミアム

ドクター・水素水は、
水に入れるとスティックから
常時水素が発生するので、
高い濃度の水素を
摂り入れることが出来ます！

水素(H_2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H_2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H_2O)になり、体を健康へと導いてくれます。1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

※活性酸素は、お酒、タバコ、食品添加物、化学物質、ストレス、紫外線、そして激しい運動時にも多量に発生します。

スポーツアスリートにおすすめ！

ドクター・水素水の使い方

0.5～2.0ℓ用の清潔なペットボトルに水を注ぎ、スティックを入れてください。(ミネラルウォーターのペットボトルをおすすめします)。投入後2時間後には豊富な状態になりますが、より濃い水素水をお飲みいただくためには、一晩(約8時間～)放置して翌朝には水素豊富水が出来上がります。

ご提案

Q:ペットボトルに何本いれたらいいですか？

1本･･･健康維持のために
2本･･･体調のすぐれない方
3本･･･体調管理が必要な方

※水素(H_2)の作用について

水素(H_2)の働きに関して世界の大学や専門機関が学会誌に論文を発表しております。詳しくは下記のサイトをご覧ください。

http://.suisosui.org/

※水素(H_2)は厚生労働省既存食品添加物192番に指定

※本製品は商品改良のため予告なく変更する場合があります。

スコアールーム

第66回国民体育大会

開催期日：2011年10月7日（金）～11日（火）
会　場：山口県・キリンビバレッジ周南スポーツセンターほか

【成年男子】

▼ 1回戦

大　阪　33（12－11、21－16）27　北海道
群　馬　37（20－14、17－19）33　秋　田
山　口　33（17－7、16－11）18　京　都

▼ 2回戦

愛　知　36（19－7、17－10）17　大　阪
茨　城　34（18－13、16－18）31　岩　手
福　井　35（18－11、17－13）24　東　京
広　島　46（21－9、25－10）19　熊　本
佐　賀　38（17－11、21－11）22　群　馬
岡　山　26（11－11、15－13）24　富　山
三　重　32（18－8、14－10）18　愛　媛
埼　玉　45（22－13、23－9）22　山　口

▼ 準々決勝

愛　知　37（18－11、19－11）22　茨　城
広　島　33（17－12、16－10）22　福　井
佐　賀　40（19－11、21－15）26　岡　山
埼　玉　39（18－16、14－16）38　三　重
（4－3、3－3）

▼ 準決勝

広　島　36（16－14、20－11）25　愛　知
佐　賀　42（18－18、24－18）36　埼　玉

▼ 3位決定戦

愛　知　28（14－9、14－14）23　埼　玉

▼ 決　勝

佐　賀　34（15－15、19－18）33　広　島

【成年女子】

▼ 1回戦

熊　本　34（17－8、17－8）16　富　山
茨　城　31（16－15、15－8）23　宮　城
山　口　30（15－12、15－10）22　東　京
大　阪　41（23－8、18－6）14　北海道
石　川　28（11－6、17－7）13　岐　阜
神奈川　36（21－11、15－8）19　福　島
香　川　29（20－4、9－14）18　兵　庫
広　島　38（15－12、23－4）16　鹿児島

▼ 準々決勝

熊　本　31（13－9、18－12）21　茨　城
山　口　32（16－14、16－14）28　大　阪
石　川　40（18－10、22－6）16　神奈川
広　島　23（11－8、12－10）18　香　川

▼ 準決勝

熊　本　32（16－10、16－10）20　山　口
石　川　31（19－10、12－13）23　広　島

▼ 3位決定戦

広　島　29（11－7、18－13）20　山　口

▼ 決　勝

石　川　34（19－9、15－13）22　熊　本

【少年男子】

▼ 1回戦

茨　城　40（17－20、23－14）34　福　井
愛　知　40（20－10、20－16）26　宮　城
沖　縄　40（20－17、20－17）34　兵　庫
岡　山　44（20－11、24－14）25　北海道
埼　玉　25（12－12、13－12）24　香　川
岩　手　31（18－15、13－13）28　佐　賀
山　梨　34（17－10、17－21）31　大　阪
山　口　31（13－12、18－8）20　三　重

▼ 準々決勝

愛　知　38（19－14、19－18）32　茨　城
沖　縄　35（15－13、13－15）31　岡　山
（3－2、4－1）
岩　手　32（16－15、16－15）30　埼　玉
山　口　38（19－10、19－13）23　山　梨

▼ 準決勝

沖　縄　33（18－14、15－18）32　愛　知
山　口　30（16－16、14－12）28　岩　手

▼ 3位決定戦

岩　手　35（19－13、16－18）31　愛　知

▼ 決　勝

沖　縄　28（14－13、14－14）27　山　口

【成年女子】

▼ 1回戦

京　都　33（17－6、16－8）14　北海道
埼　玉　32（16－9、16－13）22　大　分
岐　阜　28（16－9、12－10）19　岡　山

▼ 2回戦

山　口　29（14－12、15－7）19　京　都
千　葉　34（16－8、18－10）18　岩　手
三　重　36（19－3、17－9）12　鳥　取
東　京　25（10－5、15－7）12　熊　本
埼　玉　24（13－8、11－13）21　大　阪
香　川　30（13－11、17－8）19　宮　城
沖　縄　32（15－12、17－12）24　茨　城
岐　阜　28（13－13、15－12）25　富　山

▼ 準々決勝

山　口　28（11－9、17－14）23　千　葉
東　京　27（16－12、11－13）25　三　重
香　川　26（13－10、13－13）23　埼　玉
沖　縄　28（13－12、15－10）22　岐　阜

▼ 準決勝

山　口　30（10－10、20－7）17　東　京
香　川　27（14－9、13－14）23　沖　縄

▼ 3位決定戦

東　京　26（12－10、14－7）17　沖　縄

▼ 決　勝

山　口　27（13－10、14－10）20　香　川

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【茨　城】野村　正志　【埼　玉】寺尾　嗣子、小澤　隆志、小澤　智子　【東　京】橋本　進、東尾　吉信、山田　育代、荒川　晶夫、三宅　杏奈、泉　直樹　【神奈川】田中さよ子、白井　章、高見澤健介
【富　山】林　裕子、若松　路夫　【静　岡】細澤　覚　【愛　知】伊藤　克美、伊藤十和奈　【愛　知】小林　勇、坪井　夕香、山本　智子、柿原　和幸　【大　阪】布目　明子、西端美重子、中塚冨佐子、小藪　律子
【広　島】木下しのぶ、塩屋　正子

【12月の行事予定】

【会　議】
12月10日(土)　常務理事会（東　京）

【大　会】
12月3日(土)～18日(日)
　第20回女子世界選手権（ブラジル・サンパウロ）
12月21日(水)～25日(日)
　第63回全日本総合選手権（神奈川県・横浜市）
12月24日(土)～28日(水)
　第20回JOCジュニアオリンピックカップ
　（愛知県・名古屋市）

HANDBALL CONTENTS Dec.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可

平成二十三年十一月二十六日印刷
平成二十三年十二月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話　代表〇三―三四八一―二三六一
振替　〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼
発行人　川上憲太

定価　年間三三〇〇円